

TIME BOOT

RSC-MT8FS

(FW : 1.00C用)

詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リブーターTIME BOOT RSC-MT8FSをご購入いただき誠にありがとうございます。

TIME BOOT RSC-MT8FS（以下、本装置と省略）はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする自動電源制御装置です。8個の100VAC電源を個別に遠隔制御／管理できます。

PINGによる死活監視に加えて、年間スケジュール機能をご利用になれます。

本装置が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本装置には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. セットアップガイド 兼 保証書
2. ラック取り付け金具及び取り付けネジ
3. 2P/3P 変換プラグ 1個
4. シリアルケーブル 1本

●本製品で利用しているソフトウェアライセンスについて●

本製品では以下のオープンソースソフトウェアを利用しています。これらのオープンソースソフトウェアについては、リンク先のライセンス条件に示されたライセンス条件と免責規定が適用されます。

- [OpenSSH \(5.1p1\) のライセンス条件へのリンク](#)
- [OpenSSL \(0.9.8i\) のライセンス条件へのリンク](#)

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘ は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は⊘の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	● は、強制（必ずすること）を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。



- 万が一異常が発生したら、メインスイッチを切り、電源プラグをすぐに抜く！
煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐにメインスイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



メインスイッチ切る

- AC100V（50または60Hz）以外の電源電圧では使用しない
表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

- 本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する
本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。



アース接地

- 本装置後面のACコンセントは15Aまで
本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。
合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

- たこ足配線をしない
本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

- 電源コードを大切に
コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

- 極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない
本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。メインスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



メインスイッチ切る

●専用の温度センサーを必ず使用してください。

TEMPIには、弊社温度センサー（RP-TS004）以外差し込まないでください。



専用温度センサー

●火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない

遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な機器のみ接続してください。接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止



●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置のメインスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



メインスイッチ切る

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態を使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●DIPスイッチの操作に金属製のもの、鋭利なものを使用しない

DIPスイッチのレバーを操作する時には、先端が丸みのある柔らかい木製のものを使用してください。硬い金属製のもの、鋭利なものを使用すると、レバーを破損してしまったり、接点部の接触に支障をきたしてしまったりする恐れがあります。



DIPスイッチ操作

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

注記	本製品は内部でSG（信号グランド）とFG（フレームグランド）が接続されています。
-----------	--

目次

第1章 はじめに.....	11
1. 機能概要.....	12
2. 各部の名称と機能.....	13
3. DIPスイッチの設定.....	14
4. LED表示について.....	15
第2章 設置・取付.....	16
1. 設置・取付.....	17
2. ラックへの取付.....	17
第3章 初期設定.....	18
1. 初期設定.....	19
2. 初期化の方法.....	22
3. 一斉電源制御受付.....	23
[1] 受付状態設定方法.....	23
[2] 受付状態解除方法.....	24
第4章 WEBブラウザでの設定, 制御.....	25
1. ログイン.....	26
[1] IPアドレスを固定にして利用する場合.....	26
[2] RPCサーチソフトを利用する場合.....	28
2. 設定項目.....	29
[1] システム設定.....	29
[2] ネットワーク設定.....	45
[3] 監視設定.....	56
[4] スケジュール設定.....	64
[5] システム情報.....	70
[6] 簡易説明.....	71
3. 状態表示項目.....	72
[1] 簡易状態表示.....	72
[2] 詳細状態表示.....	73
[3] イベントログ.....	76
4. 電源制御.....	77
[1] 電源制御.....	77
[1]-1 接点制御.....	78
[2] 仮想制御.....	79
[3] 一斉制御.....	80
5. CPUリセット.....	81
第5章 その他の設定.....	82
1. TELNETによる設定.....	83
[1] TELNETコマンドによる設定.....	84
2. ターミナルソフトによる設定.....	86
第6章 その他の制御.....	87
1. TELNET接続による制御.....	88
[1] TELNET接続による制御.....	88
2. シリアルからの制御.....	89
3. モデムからの制御.....	90
4. メールからの制御.....	91
5. WEBコマンドからの制御.....	92

第7章 ログ機能	93
1. ログ機能の設定・表示	94
第8章 シャットダウンスクリプト	97
1. スクリプト仕様について	98
[1] スクリプトの基本動作	98
[2] 設定	98
[3] ログ	98
[4] エラー処理	99
[5] テキスト仕様	99
[6] PING確認について	101
第9章 無停電電源装置(UPS)との連携	102
1. 本機と無停電電源装置(UPS)の接続	103
2. 機器設定	103
第10章 SNMPについて	105
1. SNMPについて	106
2. 機器設定	106
3. MIBについて	108
第11章 ネットワーク稼働監視	109
1. 機器設定	110
2. RPC-EYE v3の利用	111
第12章 デイジーチェーン機能	112
1. 接続方法	113
[1] 親機・子機の設定方法	113
[2] 解除方法	116
2. 機能	117
[1] WEB画面上で	117
[2] コマンド制御	119
第13章 仕様一覧	120
■ 変数一覧表	121
■ ログ一覧表	129
■ 制御コマンド一覧表	130
■ 仕様一覧表	132

第1章 はじめに

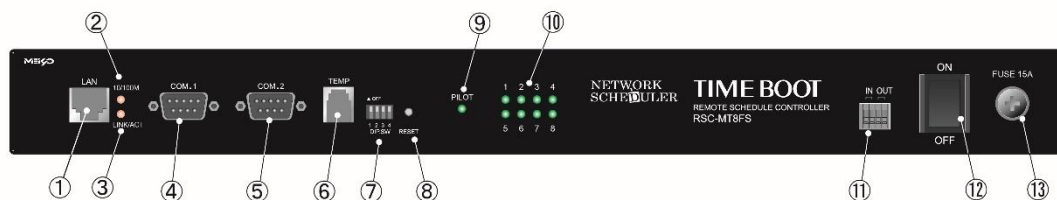
1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

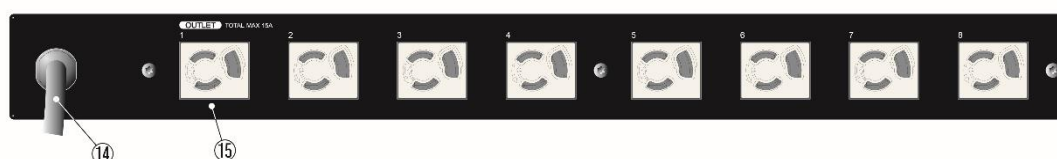
- 1) 8個の100VAC電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - WEBからの電源制御と設定
 - SSH/TELNETからの電源制御と設定
- 3) シリアルからの電源制御と設定
- 4) スケジュールによる制御
 - 年間スケジュールによる電源制御
- 5) 監視機能
 - 電源状態の監視
 - ICMPによる死活監視（PING監視）
 - ハートビートによる監視
 - 温度状態の監視（要オプション：RP-TS004）
- 6) 無停電電源装置（UPS）との連携によるシャットダウン処理
- 7) 各デバイスへの遅延電源投入
 - 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 8) メールによる制御や通知
- 9) センター通知機能
 - 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - RPC-EYE v3への通知（別売ソフト）
- 10) SNMPエージェント機能
- 11) 通信による遠隔バージョンアップ
- 12) 通信中継機能（TELNET通信）
TELNETクライアント、シリアルコンソールとして通信
- 13) マジックパケットによる起動
- 14) スクリプト通信によるOSのシャットダウン
- 15) シリアルデジチェーン機能

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LANケーブル（8ピンRJ45）を接続します。
② 10/100M LED	LANの通信速度を表示します。
③ LINK/ACT LED	通信状態を表示します。
④ COM.1	初期設定用及びUPS及びモデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
⑤ COM.2	デージーチェーン接続時に使用します。
⑥ TEMP	温度センサーを接続します。
⑦ DIPスイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
⑧ RESETスイッチ	出力電源に影響を与えずにCPUを初期化します。
⑨ PILOT LED	監視状態が正常の場合に点灯します。
⑩ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑪ IN OUT	無電圧入出力信号を接続します。
⑫ メインスイッチ	本装置の電源をON/OFFします。 接続されたデバイスが異常時にOFFにします。
⑬ FUSE	ガラス管ヒューズ15Aを使用します。
⑭ 電源コード	商用電源、UPSなどに接続します。
⑮ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

注意

出荷時、本装置のメインスイッチ(⑫)はOFFの状態になっています。ONにしてからご使用ください。
TEMPには弊社温度センサー（RP-TS004）以外差し込まないでください。また、温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能（OFFは「上」、ONは「下」を意味します。）

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	UPS（接点信号式）連携運転モード，中継機能専用モード，初期化
2	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード，初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

DIPスイッチNo.		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
UPS連携運転時	OFF		■	■	■
	ON	■			
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	
中継機能専用モード	OFF			■	■
	ON	■	■		

* 中継機能専用モードでは，シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意

DIPスイッチのレバーを操作する時には，金属製のものや鋭利なものを使用せず，先端が丸みを帯びている木製のものを使用してください。

DIPスイッチを操作するときは，本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は，必ず，本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は，第3章「初期設定」，「初期化の方法」を参照にして設定してください。

4. LED表示について

本体には4種類のLEDが装備されています。

1) 「LINK/ACT」「10/100M」LED

通信状態を表示します。

LED	LED点灯状態	状 態
「LINK/ACT」LED	点灯	リンク時
	消灯	データ受信時（連続データでは点滅）
「10/100M」LED	点灯	100BASE-TXでリンク時
	消灯	10BASE-Tでリンク時

2) PILOT LED

本体に電源投入されるとグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたらグリーンが点滅します。

（初期値は12回）

メールサーバーへのアクセスエラー時は、グリーンが点滅します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF遅延中、1秒点滅

③ 死活監視

1. 死活監視の動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

（ア）死活監視異常中（出力ON）は、2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

（イ）死活監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し、その後点灯します。（出力はON）

2. 死活監視の動作が「ON」の場合

（ア）死活監視異常中（出力ON）は、2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

（イ）死活監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒消灯→0.25秒点灯を繰り返し、その後消灯します。（出力はOFF）

3. 死活監視の動作が「OFF」の場合

（ア）死活監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し、その後点灯します。（出力はON）

「ON」「OFF」の設定はブラウザからは行えません。変数[debOlWdogAction]を直接変更する必要があります。

第2章

設置・取付

1. 設置・取付

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相100VAC/15A以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが、差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意	本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。
-----------	--

2. ラックへの取付

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) 本体に同梱のネジ8本でラック・マウント用金具を取り付けます。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を取り付けます。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

第3章 初期設定

1. 初期設定

注意 出荷時、本装置のメインスイッチ(p.12 ⑫)はOFFの状態になっています。
ONにしてからご使用ください。

使用条件の確認と同意

本装置の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定のIPアドレスを設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。
(PCと直接接続する場合は、クロスLANケーブルになります)

- 1) LANやVPN上に192.168.10.1および2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。
- 2) 設定用PCのIPアドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。
IPアドレス : 192.168.10.2
サブネットマスク : 255.255.255.0
- 3) 本体前面のDIPスイッチ3 をONにします。
(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)

注意 メンテナンスモードの場合、LANの通信速度は10BASE-Tでつながる設定になっている必要があります。

- 4) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。
http://192.168.10.1を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
Internet Explorerはver.11以上に対応しています。

- 6) ブラウザ依存のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名(デフォルト: admin)とパスワード(デフォルト: magic)を入力します。

Windows セキュリティ

iexplore.exe

サーバー 192.168.10.1 がユーザー名とパスワードを要求しています。サーバーの報告によると、これは RSC-MT8FS からの要求です。

ユーザー名

パスワード

☐ 資格情報を記憶する

OK キャンセル

7) 【**ご確認のお願い**】画面が表示されます。内容を確認の上、[上記の内容に同意します。]をチェックし[次へ]をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ
遠隔制御機能を有効化できます。

RSC-MT8FS

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁じられています。
したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び障害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットに接続してはなりません。
特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。
また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、遠隔運転可能な装置のみを接続してください。

☐ 上記の内容に同意します。

次へ

8) 【メンテナンスモード 機器設定】画面が表示されます。

メンテナンスモード 機器設定

モデル名	RSC-MT8FS
バージョン	1.00C.181116
MAC アドレス	00:09:EE:00:81:2B
IP アドレス	192.168.1.217
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☒ 有効 ☐ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
デジチェーン機能	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled ▼
ホスト側 MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

- 9) [IPアドレス] 欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
運用時にIPアドレスを固定にして利用する場合、[DHCP機能] を無効にチェックした
ままで、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
DHCPを利用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を有効にチェ
ックして「適用」をクリックします。
- 10) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 11) その他、「TELNET機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了しましたら、
「適用」をクリックします。
- 11) 本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)
- 12) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 13) Webブラウザを閉じます。
- 14) 設定用PCのIPアドレスを元に戻します。

注意	設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESETスイッチ」を押して ください。「RESETスイッチ」を押さないと設定が反映されません。
-----------	--

注意	本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていること が予想されます。NTPサーバーの設定（第4章2.1~2<3>）を行って からご使用ください。
-----------	---

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

（電源コードをコンセントに接続し、メインスイッチをOFFにしてください。）

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON（下）にします。
- 2) メインスイッチをONにして、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK/ACT LEDが5秒間点灯します。点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINK/ACT LEDとPILOT LEDが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINK/ACT LEDが消灯してしまった場合は一旦メインスイッチをOFFにし、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチを全てOFF（上）にし、再度メインスイッチをOFF/ONし電源を供給してからご使用ください。
- 7) 以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意	初期化中には本体の電源を切らないで下さい。
-----------	-----------------------

3. 一斉電源制御受付

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループに分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来る機能です。ブロードキャストパケットを利用しています。

一斉電源制御コマンドを送る方法は、第4章4.[3]をご覧ください。

[1] 受付状態設定方法

1) 本体起動後、本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし、RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモードの設定画面の下部(赤の枠)で「子機グループ」「ホスト側MACアドレス」を設定します。

子機グループ: Disabled[デフォルト]
Group1~8

ホスト側MACアドレス:
一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを指定します。

3) 「適用」を押し、DIPスイッチをすべてOFF(上)にして、RESETボタンを押すと一斉電源制御受付状態になります。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	RSC-MT8FS
バージョン	1.00C.181116
MAC アドレス	00:09:EE:00:81:2B
IP アドレス	192.168.1.217
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☒ 有効 ☐ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続
IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
ディジーチェーン機能	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled
ホスト側 MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

注意 一斉電源制御受付状態になるとWEB画面にアクセスすることができません。本装置と通信するためにはTELNET通信においてSupervisor権限でログインする必要があります。

TELNET通信はデフォルトでは「無効」となっています。(画像の緑の枠)一斉電源制御受付状態にする場合、「TELNET機能」を「有効」に設定しておいてください。

[2] 受付状態解除方法

- 1) シリアル通信やTELNET通信において、Supervisor権限でログインしてください。
- 2) ログイン後、「.broadGroup=0」と入力し、エコーが返ってきたなら、「write」コマンドによって受付状態無効を書き込みます。
- 3) その後、「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

受付状態が無効になったため、WEB画面にアクセスすることが可能になっています。

第4章

WEBブラウザ での設定，制御

1. ログイン

[1] IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。（PROXY経由ではご利用になれません）

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
半角記号の“?”，“=”，“%”，“&”，“,(カンマ)”，“(ダブルクォーテーション)”は入力しないで下さい。

Internet Explorerはver.1.1以上に対応しています。

1) Webブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

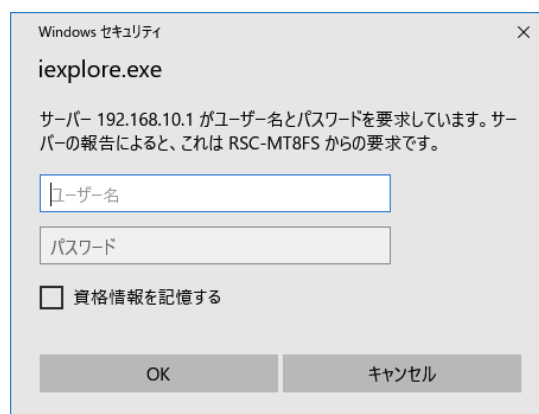
HTTPポート番号「80」デフォルトの場合

http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合

http://192.168.10.1:500

2) ブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。



注意 ブラウザによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

2) ユーザーIDとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザーID : admin (デフォルト)
パスワード : magic (デフォルト)

3) 簡易情報表示画面が表示されます。

TIMEBOOT RSC-MT8FS

← 簡易状態表示 ↻

状態表示
簡易状態表示
詳細状態表示
イベントログ
制御
電源制御
機器設定
システム設定
ネットワーク設定
監視設定
スケジュール
システム情報
簡易説明
CPUリセット

admin
192.168.1.235
admin
ログアウト

明京電機株式会社

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2			OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF
5	Outlet5			OFF
6	Outlet6			OFF
7	Outlet7			OFF
8	Outlet8			OFF

接点情報

接点出力連動設定		連動無し	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF

注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Ident, Supervisor権限ではログインすることが可能です。(ユーザーアカウントの設定については、第4章2.(3)を参照。)

スマートフォンでご使用の場合、「横向き」が標準仕様となります。
(「縦向き」でご使用になると、横スクロールの必要が生じます。)

[2] RPCサーチソフトを利用する場合

RPCサーチソフトを利用して頂ければ、同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP機能を利用した場合のようにIPアドレスが分からない場合でも、本装置を検索し接続することができます。

設定用PCと本装置とは、DHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「WEB接続」ボタンをクリックする。またはWEBブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

RPCサーチソフト機器検索画面

RPC search Ver 3.0														
機器一覧														
No.	型番	IPアドレス	MACアドレス	バージョン	稼働時間	機器名称	電源	接点OUT	接点IN	状態表示	温度	MAX	MIN	UTC
1	RSC-MT8FS	192.168.001.208	00:09:EE:00:81:2B	0.61A 170927	00000 - 00:21:40	None	8	1 .	1 .		-	-	-	2017/10/02 月 09:23:47
2	RSC-MT8FS	192.168.001.180	00:09:EE:00:81:2A	0.61A 170927	00000 - 00:24:28	None	8	1 .	1 .		-	-	-	2017/10/02 月 09:23:46
3	RPC-MSCS	192.168.001.070	00:09:EE:00:80:B5	1.00B 170317	00000 - 01:52:22	None	4 1234	-	-	-	-	-	-	未設定
4	RPC-MSCS	192.168.001.214	00:09:EE:01:45:F7	1.00B 170317	00003 - 18:49:40	None	4 12..	-	-	-	-	-	-	2017/10/02 月 09:23:46
5	RSC-MT8FP	192.168.001.142	00:09:EE:00:81:31	1.30A 141006	00007 - 08:43:50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	RSC-MT8FP	192.168.001.062	00:09:EE:00:81:00	1.30A 141006	00176 - 07:49:09	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	RPC-MAL	192.168.001.071	00:09:EE:00:31:73	1.45A 140317	00302 - 01:13:25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	SE10-8A7B1	192.168.001.048	00:09:EE:01:20:24	1.10A 160108	01874 - 18:46:21	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	RPC-MSC	192.168.001.252	00:09:EE:00:97:F5	1.43B 130330	01973 - 06:03:41	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	RPC-MAL	192.168.001.068	00:09:EE:00:31:41	1.45A 140317	04211 - 02:56:28	-	-	-	-	-	-	-	-	-

WEB接続

TELNET接続

稼働時間

検索

- 2) ブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力し。

- 3) 簡易情報表示画面が表示されます。

注意 「LINK/ACT」「10/100M」LEDがいつまでも、交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

注意 本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTPサーバーの設定（第4章2.1-2<3>）を行ってからご使用ください。

2. 設定項目

[1] システム設定

(1) 基本設定

本装置の基本的な設定をします。

- 1) 画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。「システム設定/基本設定」画面が表示されます。

←システム設定 / 基本設定

基本設定

詳細設定

セキュリティ

接続設定

時刻設定

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称

Nowhere

設置場所

Nowhere

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4
5	Outlet5	0	10	5	5
6	Outlet6	0	10	6	6
7	Outlet7	0	10	7	7
8	Outlet8	0	10	8	8

全アウトレットREBOOT時間 (秒)10

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
ONを「-1」にすると全アウトレットON時、電源出力しません。
STARTを「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

アウトレット運動設定

No.	アウトレット運動
1	-
2	-
3	-
4	-
5	-
6	-
7	-
8	-

フロントパネル設定

LED 状態

●有効 ○無効

ブザー音

○有効 ●無効

温度センサー設定

温度センサー

○有効 ●無効

メンテナンスモード

○有効 ●無効

記録間隔 (分)

10

温度ログ

☐全ログクリア

スケジュール時ON遅延時間

1	0	2	0	3	0	4	0
5	0	6	0	7	0	8	0

＜1＞機器情報

機器に関する設定をします。

「機器名称」： 機器名称を設定します。(全角10文字, 半角英数字20文字以内)

「設置場所」： 設置場所を設定します。(全角31文字, 半角英数字63文字以内)

＜2＞アウトレット設定

- ① 「アウトレット名称」： 個別アウトレットの名称を設定します。

(全角10文字, 半角英数字20文字以内)

- ② 「OFF」

個別アウトレットの電源出力を停止する際のOFF遅延時間を設定します。シャットダウンスクリプトを利用する場合は、スクリプトが動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。「-1」設定は、電源OFF操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源OFFを避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御のOFF操作

- ・全アウトレット制御のOFF操作

デフォルト : 0

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」 : アウトレット制御のOFF操作を使用不可にします。リブート操作のみ可能です。

「0」 : 即座に電源出力を停止します。

「1~3600」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

- ③ 「REBOOT」

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間(秒数)を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

- ④ 「ON」

「All Outlet」に対して「ON」ボタンを押した時に、個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間(秒数)を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・全アウトレット制御のON操作

- ・全アウトレット制御のリブート操作 (関連は「全アウトレットREBOOT時間」で)

デフォルト : No.1→1 No.2→2 No.3→3 No.4→4

No.5→5 No.6→6 No.7→7 No.8→8

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」 : 自動で電源出力を開始しません。

- 「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。
「 1～3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

⑤ 「START」

本体電源投入時に個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間(秒数)を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。数値の設定に関しては④の方法と同じです。

⑥ 「全アウトレットREBOOT時間」

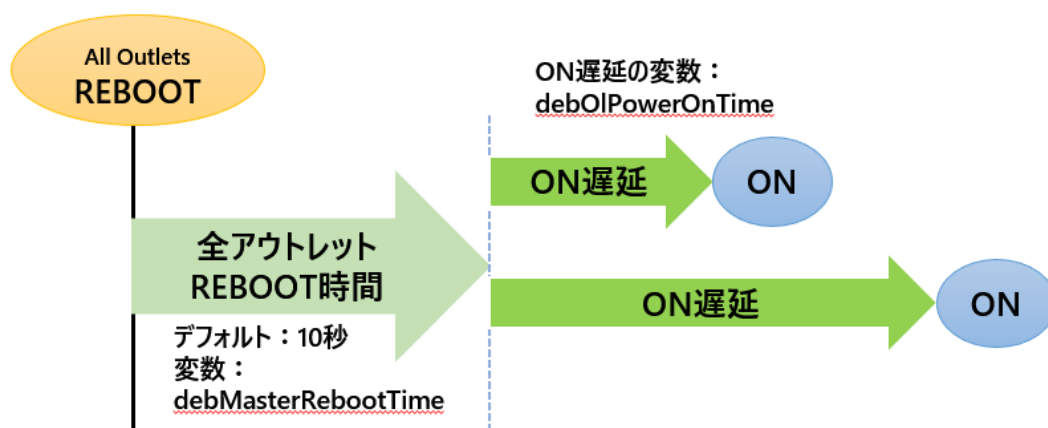
全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) 個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

- ・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8～3600 (秒)



＜3＞アウトレット連動設定

選択したアウトレットの動作(ON, OFF, REBOOT)に連動します。

＜4＞フロントパネル設定

① 「LED状態」

有効: 監視状態により、各LEDの状態表示が動作します。

無効: OUTLET LEDの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

デフォルト : 有効

注意 本体起動時のアウトレット出力はスケジュール設定に従います。スケジュール設定がない場合は本体電源断時の状態に戻します。

② 「ブザー音」

[無効] [有効] を選択します。

〈5〉温度センサー設定

温度センサーに関する設定をします。

温度センサー	: 有効 無効
メンテナンスモード	: [有効]にすると温度監視による電源変化は行いません。
記録間隔(分)	: イベントログに記録する間隔（デフォルト：10分）
温度ログ	: [全ログクリア]をチェックして[適用]を押すと、温度ログが 消去されます。

注意 TEMPには弊社温度センサー（RP-TS004）以外差し込まないでください。また、温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

注意 本体起動時のアウトレット出力はスケジュール設定に従います。スケジュール設定がない場合は本体電源断時の状態に戻します。

〈6〉スケジュール時ON遅延時間

スケジュール設定にしたがって各アウトレットの「電源ON」になるときの各アウトレットの「ON遅延時間」（単位:秒）を設定できます。

デフォルト：各アウトレット 0(秒)

0～3600の整数値を設定できます。

(1)-1 接点設定

本装置の接点入出力に関する設定します。

1)「システム設定」→基本設定の下の「接点設定」をクリックします。

システム設定 / 基本設定 / 接点設定			
基本設定 詳細設定 セキュリティ 接点設定			
接点入力設定 (INPUT)			
接点入力名称	1	NV Input1	
		Short	Open
連動電源制御 コマンド	1		
連動接点制御 コマンド	1		
連動接点制御 ブザー音	1	無効	接点ON時
接点出力設定 (OUTPUT)			
接点出力連動設定	連動無し		
接点出力名称	1	NV Output1	
アウトレット 連動接点番号	1	連動無し	
	2	連動無し	
	3	連動無し	
	4	連動無し	
	5	連動無し	
	6	連動無し	
	7	連動無し	
	8	連動無し	
温度上限警報	連動無し		
温度下限警報	連動無し		
ハートビート	連動無し		
死活監視	連動無し		
動作モード	1	ノーマル	レベル

<1>接点入力設定(INPUT)

接点入力に関する設定をします。

名称 : 接点入力名称を設定します。
全角10文字，半角英数字20文字以内

連動電源制御コマンド : PONn, POFn, PORn, PSRn

(n=1~8)

MPON, MPOF, MPOR

連動接点制御コマンド : SON1, SOF1, MSON, MSOF

連動接点制御ブザーON : 「Short」: 無効 連続 0.5秒間隔
1秒間隔

「Open」: 接点ON時 接点OFF時

* Short, Open状態のどちらかの制御コマンドを設定できます。

★「ブザー音」を「有効」にするには[システム設定][基本設定][フロントパネル設定]のところをご覧ください。(p.30参照)

接点入力

接点入力信号が入力された時、連動電源制御コマンド及び連動接点制御コマンドを実行します。(接点が1秒(デフォルト)以上短絡された場合を入力と判断します。)

〈2〉接点出力設定(OUTPUT)

接点出力に関する設定をします。

接点出力連動設定	:	連動なし、電源状態に連動 温度監視に連動、死活監視に連動
名称	:	接点出力名称を設定します。 全角10文字、半角英数字20文字以内
連動接点番号	:	連動なし、接点出力1
温度上限警報	:	連動なし、接点出力1
温度下限警報	:	連動なし、接点出力1
ハートビート	:	連動なし、接点出力1
死活監視	:	連動なし、接点出力1
動作モード	:	ノーマル、リバース レベル、パルスを設定します。

接点出力

接点出力連動設定で設定した条件で接点出力されます。動作モードで「リバース」を選択しますと接点出力は「接点出力開放」状態で出力されます。(接点出力とは接点を短絡することを意味します。)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
-----------	----------------------------------

(1)-2 時刻設定

「システム設定」→基本設定の下の「時刻設定」をクリックします。

＜1＞時刻内容

PC内蔵時計の時刻と本装置内蔵時計の時刻を表示します。

＜2＞時刻設定

「同期」をクリックすると接続されたPCの時刻と同じ時刻に設定できます。

＜3＞NTP設定

「NTPサーバーアドレス」：NTPサーバーアドレスを入力します。

「NTPサーバー同期間隔」：NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。
（[入力数]×10分、となります）

注意 本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTPサーバーの設定を行ってからご使用ください。

2) 詳細設定

「システム設定」→「詳細設定」をクリックしてください。

No.	アウトレット名称	MAC アドレス
1	Outlet1	00:00:00:00:00:00
2	Outlet2	00:00:00:00:00:00
3	Outlet3	00:00:00:00:00:00
4	Outlet4	00:00:00:00:00:00
5	Outlet5	00:00:00:00:00:00
6	Outlet6	00:00:00:00:00:00
7	Outlet7	00:00:00:00:00:00
8	Outlet8	00:00:00:00:00:00

仮想アウトレット設定 [Wake On Lan]			
No.	仮想アウトレット名称	MAC アドレス	遅延(秒)
1		00:00:00:00:00:00	0
2		00:00:00:00:00:00	0
3		00:00:00:00:00:00	0
4		00:00:00:00:00:00	0
5		00:00:00:00:00:00	0
6		00:00:00:00:00:00	0
7		00:00:00:00:00:00	0
8		00:00:00:00:00:00	0

Wake On Lan	
Wakeup 最大カウント数	2
Wakeup 間隔	15

COMポート設定	
COM1 通信速度	38400bps ▼
COM1 キャラクター長	8 bits ▼
COM1 ストップビット	1 bit ▼
COM1 パリティ	none ▼

UPS連動設定	
UPS名称	
モニタ間隔(秒)	10
シャットダウン開始(秒)	120
停電検知レベル	☐ 負 ☒ 正
ローバッテリー検出レベル	☐ 負 ☒ 正
シャットダウン信号レベル	☐ 負 ☒ 正
シャットダウン有効化	☒ 無効 ☐ 有効

<1>レジストリリスト

「Textリスト」をクリックすると、WEB画面上に全変数が表示されます。

<2>機器制御

「ファームウェア管理」:「ファームウェア更新」をクリックすると、現在のファームウェアを確認でき、明京サーバーから最新版にアップグレードすることができます。

ファームウェアバージョンアップ	
現在のファーム情報	
バージョン	0.61A.170927
モデル名	RSC-MT8FS
バージョンアップ方法の選択	
オンラインアップデート	開始
ローカルファイルの選択	ファイル選択

【バージョンアップ方法の選択】

- [1]オンラインアップデート：明京サーバーに接続してアップグレードします。
- [2]ローカルファイルから：コンピュータに保存したアップグレード用のファイルを選択してアップグレードします。

★何かのアクシデントでバージョンアップに失敗した場合★

オンラインアップデートまたはローカルファイル選択によるアップデートの途中で停電したりLANケーブルが抜けたりしてバージョンアップに失敗した場合、復旧

後再びWEB画面で本装置にアクセスしてください。

●WEB画面でアクセスできる

→そのままご使用いただけます

●WEB画面に次の表示が出る

Firmware Recovery

ファイルを選択 選択されていません

Update

「ローカルファイル選択によるアップデート」を再実施する必要があります。
バージョンアップファイルは明京電機株式会社ホームページにあります。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/> の「アップデート（ファームウェア&ソフトウェア）」のセクションから該当機種バージョンアップファイルをダウンロードしてください。

「ファイルを選択」をクリックし、用意したバージョンアップファイルを選択します。その後、「Update」をクリックし、アップデートを実施します。

●「Update」クリック後、しばらくお待ちください。

1分以上しても表示が変わらなければ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。（初期化は絶対にしないでください。
正常稼働しなくなります。）

完了すると次の画面が表示されます。

Firmware update has completed successfully.

＜3＞アウトレット連動送信 Wake On Lan

WakeOnLAN機能について

WakeOnLAN対応の機器を電源出力開始と同時にマジックパケットを送信し、ブートアップさせることができます。

WakeOnLANに関する設定をします。

Outlet1～8 MACアドレス デフォルト : 00:00:00:00:00:00

* アウトレットがONした時、マジックパケットを送出します。

＜4＞仮想アウトレット設定 [Wake On Lan]

仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされたMACアドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN機能を実現させるためのものです。

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレット名称 : 仮想アウトレット名称を設定します。

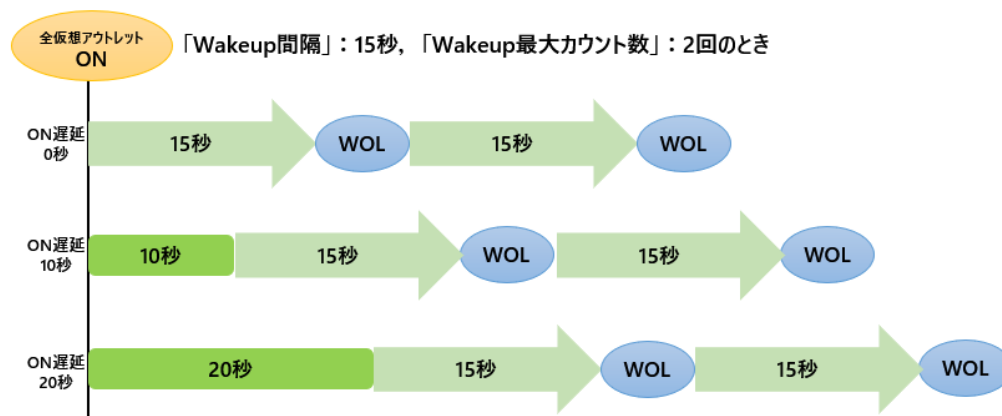
全角10文字、半角英数字20文字以内

MACアドレス デフォルト : 00:00:00:00:00:00

遅延（秒） デフォルト : 0 《ON遅延の秒数です》

●(※)「ON遅延」について●

「電源制御-仮想制御-仮想アウトレット(WOL)」で「全仮想アウトレット」をONにしたときに、このON遅延が発生します。



＜5＞Wake On Lan

「アウトレット連動送信Wake On Lan」「仮想アウトレット設定[Wake On Lan]」双方に関わる設定をします。

Wakeuperiod最大カウント数	デフォルト	: 2
Wakeuperiod間隔	デフォルト	: 15(秒)

＜6＞COMポート設定

COMポートに関する設定をします。

COM1通信速度	デフォルト	: 38400bps
COM1キャラクタ長	デフォルト	: 8bits
COM1ストップビット	デフォルト	: 1bit
COM1パリティ	デフォルト	: none

＜7＞UPS連動設定

UPS名称 : UPS名称を設定します。
全角10文字, 半角英数字20文字以内

UPSモニタ時間間隔 デフォルト : 10秒

UPSシャットダウン開始時間 デフォルト : 120秒

停電検地レベル : 負 正

ローバッテリー検出レベル : 負 正

UPSシャットダウン信号レベル : 負 正

UPSシャットダウン有効化 : 無効 有効

詳細は「第10章 無停電電源装置 (UPS) との連携」をご参照ください。

(2)-1 シャットダウンスクリプト設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

- 1) 「システム設定」→「詳細設定」→「シャットダウン」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

システム設定 / 詳細設定 / シャットダウン / アウトレット1	
基本設定 詳細設定 セキュリティ	
シャットダウン	
アウトレット1 アウトレット2 アウトレット3 アウトレット4	
アウトレット5 アウトレット6 アウトレット7 アウトレット8	
スクリプト データ	
シャットダウン スクリプト スクリプト編集	
スクリプト設定 (アウトレット1)	
スクリプト機能	☐ 有効 ☒ 無効
スクリプト番号	1
IP アドレス	
ポート	0
ユーザーID	
パスワード	
シャットダウン Ping アドレス	
シャットダウン Ping 間隔	0
シャットダウン Ping 回数	0
シャットダウン Ping 最大送信数	0
メッセージ	
適用	

＜1＞スクリプト設定（アウトレット＊）

スクリプト機能	： 無効，有効
スクリプト番号	： 0（デフォルト） 1（Windows用設定が登録済）
IPアドレス	： IPアドレスを設定します。
ポート	： 0（デフォルト）
ユーザーID	： 最大半角16文字
パスワード	： 最大半角16文字
シャットダウンPingアドレス	：
シャットダウンPing間隔	： 0（デフォルト）
シャットダウンPing回数	： 0（デフォルト）
シャットダウンPing最大送信数	： 0（デフォルト）
メッセージ	

- 2) シャットダウンスクリプトを設定するアウトレットNo.をクリックし、「スクリプト編集」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。

〈2〉スクリプトエラー時の終了コード番号

終了コードがこの値を超えていたら、電源をOFFしません。

「0」なら、終了コードが0のときだけオフにします。

「255」なら、どんなときにもオフにします。

詳細は「第9章 シャットダウンスクリプト」をご参照ください。

(3) セキュリティ

システム設定 / セキュリティ

http Ident (表示のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1		
2		
3		

http Control (表示 & 電源制御のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1		
2		
3		

http Admin

No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	●●●●●
2		
3		

http Supervisor

No.	ユーザーID	パスワード
1	super	●●●●●●●●
2		
3		

http Ident : システム情報の参照のみ (※ 最大10件登録)

http Control : システム情報参照と電源の制御のみ (※ 最大10件登録)

http Admin : 全ての権限 (※ 最大5件登録)
デフォルトとして「1」に ユーザーID：admin パスワード：magic

http Supervisor : Ident権限にCPUリセット機能を追加 (※ 最大5件登録)
デフォルトとして「1」に ユーザーID：super パスワード：illusion

ユーザーID : 最大半角8文字 (重複不可) (@は不可)
パスワード : 最大半角16文字 (重複可)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 TELNET, SSH用のパスワードは別途変更する必要があります。

(3)-1 フィルター

システム設定 / セキュリティ / フィルター

基本設定 詳細設定 セキュリティ

フィルター

IP フィルター設定

IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
アドレス1	192.168.10.0
アドレス2	
アドレス3	

Ident / Control ユーザー 表示設定

詳細状態表示	☐ 隠す ☒ 表示
接点制御	☐ 隠す ☒ 表示
仮想アウトレット制御	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 ON ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 OFF ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 REBOOT ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット1 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット2 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット3 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット4 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット5 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット6 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット7 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット8 関連	☐ 隠す ☒ 表示
全アウトレット制御ボタン	☐ 隠す ☒ 表示

＜1＞IPフィルター設定

IPフィルター機能 : 有効 無効

アドレス : 0.0.0.0（デフォルト）

（最大10アドレス）

登録するアドレスは、最後のビットを0にします。

アドレス1のデフォルト値 [192.168.10.0] ですと、
192.168.10.1～192.168.10.254からのみ接続可能となります。
（0に設定した部分は、あらゆる数値をとれる、ということになります）

なお、フィルターの範囲を「ある値から別の値まで」のように細かに設定するためには、IPフィルターのマスク設定を変更する必要があります。

変数名と設定方法は以下のとおりです。

IPフィルターアドレスの変数名 [ipFilterAddr]

IPフィルターマスクの変数名 [ipFilterMask]

IPフィルター機能はビット単位のマスク機能です。ですので2進法を使用して値の範囲を指定することになります。

基本的にマスクを「255」にすると「必ずその値でなければならない」となり、
「0」にすると「その部分はあらゆる数値をとれる」となります。

ですので、ipFilterMask=255.255.255.0
ipFilterAddr=192.168.10.0 とすると、
「192.168.10.1～192.168.10.254」から接続可能になります。

例1 「192.168.10.1～192.168.10.150」まで接続可能にしたい場合

まず「192.168.10.」の部分は「必ずその値であるべき」なのでマスクは「255.255.255.」で始めます。最後の一寸に関して2進法を使って設定していきます。

「150」を2進法で表すと「10010110」となります。つまり、128+16+4+2です。【2進法の「1」に注目しています。】

このとき「128」、「128+16=144」、「128+16+4=148」、「128+16+4+2=150」の4つを区切りとして考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」、「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
1～127	0xxxxxxx	1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	→	128	0
128～143	1000xxxx	1 1 1 1 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0	→	240	128
144～147	100100xx	1 1 1 1 1 1 0 0	1 0 0 1 0 0 0 0	→	252	144
148～149	1001010x	1 1 1 1 1 1 1 0	1 0 0 1 0 1 0 0	→	254	148
150	10010110	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 0	→	255	150

となるので、TELNETやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.128,255.255.255.240,255.255.255.252,255.255.255.254,255.255.255.255

.ipFilterAddr=192.168.10.0,192.168.10.128,192.168.10.144,192.168.10.148,192.168.10.150

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

例2 「192.168.10.151～192.168.10.254」まで接続可能にしたい場合

これも最後の一枠だけ考えます。

「151」を2進法で表すと「10010111」となります。この数字から255を目指すので、今度は2進法の「0」に注目すると、あと「8+32+64」あれば255になります。(IPアドレスで255は使用しません。ただフィルターのマスクを考えるにあたっては便宜上255をイメージします)

このとき「151」、「151+8=159」、「151+8+32=191」、「151+8+32+64=255」の4つで考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」,「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
151	10010111	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 1	→	255	151
152~159	10011xxx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 1 0 0 0	→	248	152
160~191	101xxxxx	1 1 1 0 0 0 0 0	1 0 1 0 0 0 0 0	→	224	160
192~255	11xxxxxx	1 1 0 0 0 0 0 0	1 1 0 0 0 0 0 0	→	192	192

となるので、TELNETやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.248,255.255.255.224,255.255.255.192

.ipFilterAddr=192.168.10.151,192.168.10.152,192.168.10.160,192.168.10.192

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

これで「192.168.10.151~192.168.10.254」だけが接続できるようになりました。

〈2〉Ident / Controlユーザー 表示設定

詳細状態表示	:	表示, 隠す
接点制御	:	表示, 隠す
仮想アウトレット制御	:	表示, 隠す
電源制御ONボタン	:	表示, 隠す
電源制御OFFボタン	:	表示, 隠す
電源制御REBOOTボタン	:	表示, 隠す
アウトレット1-8関連	:	表示, 隠す
全アウトレット制御ボタン	:	表示, 隠す

「隠す」にチェックするとWEB接続時、Ident / Control権限での各表示を隠すことが出来ます。

注意 デイジーチェーン接続時、アウトレット9~16の表示は隠すことができません。

[2] ネットワーク設定

(1) 基本設定

ネットワーク設定 / 基本設定		
基本設定	詳細設定	メール設定
半角英数のみ		
ネットワーク基本設定		
IP アドレス	192.168.1.208	
サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1	
DNS サーバーアドレス	192.168.1.1	
DHCP	☐ 有効 ☒ 無効	
HTTP	☒ 有効 ☐ 無効	
HTTP Port	80	
HTTP 認証方式	Digest	
Realm 名	RSC-MT8FS	
Nonce 時間 (秒)	180	
TELNET	☒ 有効 ☐ 無効	
TELNET Port	23	
リモート TELNET IP		
リモート TELNET ポート	23	
通信速度	自動接続	
RPCサーチ	☒ 有効 ☐ 無効	
自動ログアウト	☒ 有効 ☐ 無効	
html 表示設定		
ログインタイムアウト (秒)	600	
自動ページ更新設定	☐ 有効 ☒ 無効	
自動ページ更新時間 (秒)	30	
ダイレクトWEBコマンド設定		
ダイレクトWEBコマンド機能 [?]	☒ 有効 ☐ 無効	

＜1＞ネットワーク基本設定

IPアドレス	デフォルト	:	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	:	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	:	0.0.0.0
DNSサーバーアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
DHCP	デフォルト	:	無効
HTTP	デフォルト	:	有効
HTTP Port	デフォルト	:	80
HTTP認証方式	デフォルト	:	Digest認証
Realm名	デフォルト	:	RSC-MT8FS (半角20文字以内)
Nonce時間(秒)	デフォルト	:	180 (秒)
TELNET	デフォルト	:	無効
TELNET Port	デフォルト	:	23
リモートTELNET IP	デフォルト	:	0.0.0.0
リモートTELNETポート	デフォルト	:	23
通信速度	デフォルト	:	自動接続
RPCサーチ	デフォルト	:	有効
自動ログアウト監視	デフォルト	:	有効

注意 HTTP認証を「none」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。
「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面にIDとパスワードを入力する方式になります。

外部のネットワークから接続するためIPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にしてください。

注意 DHCP利用中、IPアドレスの取り直しが行われると本装置は自動的にCPU RESETを行います。

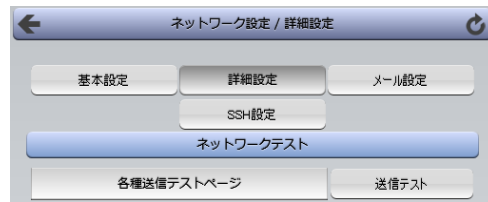
＜2＞html表示設定

ログインタイムアウト(秒)	:	自動ログアウトまでの時間を設定します。 (デフォルト: 600) (設定可能値: 30~30000[秒])
自動ページ更新機能	:	有効/無効 (デフォルト: 無効)
自動ページ更新間隔 (秒)	:	WEB自動更新間隔の時間を設定します。 (デフォルト: 30)

＜3＞ダイレクトWEBコマンド制御

ダイレクトWEBコマンド	:	有効/無効 (デフォルト: 無効)
--------------	---	-------------------

(2) 詳細設定



＜1＞ネットワークテスト

各種送信テストが行えます。



＜1＞-1 機能テスト

ブザー音の確認ができます。

＜1＞-2 Wake On LAN送信テスト

設定されているMACアドレスにマジックパケットを送信できます。

＜1＞-3 テストメール

「通知先」に登録しているメールアドレスにテストメールを送信します。
何らかの不具合が出た場合「エラーメッセージ」が表示されます。
「クリア」を押すとエラーメッセージがクリアされます。

＜1＞-4 Ping送信テスト

「対象IPアドレス」に入力したIPアドレスに対してICMPを送信し、その結果を表示します。

- ① [送信] をクリックします。
- ② 測定中は「測定中」の表示がされます。
- ③ 測定結果が表示されます。
 - 正常 : Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyms
 (xxx.xxx.xxx.xxx : 測定先アドレス yyy : 応答時間(ミリ秒))
 - 異常 : Request timed out. (応答が異常時)
 - 異常 : Domain name not found. (ドメイン名が存在しない)

← ネットワーク設定 / 詳細設定 ↻

基本設定 詳細設定 メール設定

SSH設定

ネットワークテスト

各種送信テストページ 送信テスト

基本 SNMP 設定

SET GET 設定	☐ 有効 ☒ 無効
GET Community Name	public
SET Community Name	public
TRAP Community Name	public
Manager Trap	☐ 有効 ☒ 無効
Authentication Trap	☐ 有効 ☒ 無効
Trap IP アドレス1	
Trap IP アドレス2	
Trap IP アドレス3	
Trap IP アドレス4	
Trap IP アドレス5	
Trap IP アドレス6	
Trap IP アドレス7	
Trap IP アドレス8	

ネットワーク設定の変更は、CPUのリセット後に有効になります。

SNMP フィルター設定

SNMP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
フィルター IP アドレス	フィルターマスク
1	255.255.255.255
2	255.255.255.255
3	255.255.255.255

状態通知機能

状態通知機能	無効
1 IP アドレス	
ポート	5000
2 IP アドレス	
ポート	5000
3 IP アドレス	

子機側一斉電源制御

グループ設定	Disabled
ホスト側 MAC アドレス指定	00:00:00:00:00:00

アウトレット連動一斉制御送信

	制御	動作
1	指定無し	無動作
2	指定無し	無動作
3	指定無し	無動作

〈2〉基本SNMP設定

SET GET設定		: 有効 無効
GET Community Name	デフォルト	: public [全角10字, 半角20字以内]
SET Community Name	デフォルト	: public [全角10字, 半角20字以内]
TRAPコミュニティ名	デフォルト	: public [全角10字, 半角20字以内]

Manager Trap		:	有効 無効
AuthenticationTrap		:	有効 無効
Trap IPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0 (最大8IPアドレス)

＜3＞SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルターIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大10アドレス)

＜4＞状態通知機能

状態通知機能		:	無効 SYSLOG MPMP RPC-EYE v3
IPアドレス1-8	デフォルト	:	0.0.0.0
ポート1-8	デフォルト	:	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	:	300

状態通知機能については、「第12章 ネットワーク稼動監視」をご参照ください。

●MPMP (Meikyo Products Management Protocol) とは、従来の明京電機状態通知プロトコルを拡張したものです。規模の大きい状態監視システムを構築する時や接点情報を活用した監視システムをする時に役立ちます。対応ソフトウェアについては弊社営業部にご相談ください。

注意 デイジーチェーン接続時、「状態通知機能」は対応していません。

＜5＞アウトレット連動一斉制御送信

制御	:	指定無し	グループ1～8
動作	:	無動作	連携なし
		電源ON	電源ON時にON一斉制御送信
		電源OFF	電源ON時にOFF一斉制御送信
		リブート	電源ON時にリブート一斉制御送信
		同期	電源ON時にON一斉制御送信
			電源OFF時にOFF一斉制御送信
			電源リブート時にはリブート一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信とは、設定アウトレットの電源操作に連動して設定されている機器グループに対して一斉制御命令を送信する機能です。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(2)-1 SSH設定

SSHサーバー機能の設定を行います。

1) 「SSH設定」をクリックします。SSH設定設定画面が表示されます。

SSHサーバー設定		
SSHサーバー	☐ 有効 ☒ 無効	
SSHサーバー ポート	22	
タイムアウト(分)	10	
	SSH ユーザーID	SSH パスワード
Admin	admin	●●●●●
SV	super	●●●●●●●●

＜1＞SSH KEY表示

- | | | |
|-----------------|---|--|
| sshPublicDsaKey | : | SSH.DSA公開鍵を表示します。 |
| sshPublicRsaKey | : | SSH.RSA公開鍵を表示します。 |
| sshKnownHost1-8 | : | シャットダウンスクリプト実行時, SSHクライアントとして接続したときにサーバーから受け取ったキーを表示します。 |

＜2＞SSH設定

- | | | |
|-------------|---|--------------------------------|
| SSHサーバー | : | サーバー機能の有効/無効を選択
(デフォルト: 無効) |
| SSHサーバー ポート | : | SSHサーバーのポート番号を設定 |

	(デフォルト：22)
タイムアウト（分）	: SSHサーバーの無通信時間を設定 (デフォルト：10分)
SSHユーザーID	: SSHサーバーログイン用のユーザー名 (Admin権限=デフォルト：admin) (SV権限=デフォルト：super)
SSHパスワード	: SSHサーバーのパスワードを設定 (Admin権限=デフォルト：magic) (SV権限=デフォルト：illusion)

注意 SSHのユーザーIDで、AdminとSVで同じものを設定すると不具合が生じます。ですので、必ず別のIDを設定するようになさってください。

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 3) SSHサーバー機能を使うためにはDSAキーとRSAキーを作成する必要があります。
TELNETまたはシリアル通信でログインした後、次のコマンドを実行します。

```
KEYGEN _ DSA
KEYGEN _ RSA
```

（_はスペース）
作成中[.]が表示されます。作成には数分間必要です。CPUリセット後有効になります。

注意 SSHは、OPEN SSH 5.1p1を使用しています。

(3) メール設定

メール機能に関する設定をします。

1)「メール設定」をクリックします。

←

ネットワーク設定 / メール

↻

基本設定

詳細設定

メール設定

半角英数のみ

メールサーバー設定

ユーザー名	
パスワード	
メールアドレス	
受信サーバー	
受信ポート	110
送信サーバー	
送信ポート	25
ログアウト時間 (分)	10
メール確認間隔 (分)	3
再接続時間 (秒)	10
形式	☐ IMAP ☒ POP3
SMTP Auth	☐ 有効 ☒ 無効
	☒ CRAM-MD5
	☒ LOGIN
	☒ PLAIN
IMAP Auth	☒ CRAM-MD5
	☒ LOGIN
APOP	☐ 有効 ☒ 無効

メール制御設定

メール制御コマンド [?]	☐ 有効 ☒ 無効
メール制御ユーザー名	
メール制御パスワード	
送信メール 件名	機器名称
送信メール 本文1行目	日時又は積算時間
送信メール 本文2行目	設置場所
送信メール 本文3行目	IPアドレス
送信メール 本文4行目	MACアドレス
送信メール 本文5行目	ユーザー任意1
送信メール 本文6行目	イベント内容
送信メール 本文7行目	表示無し
送信メール 本文8行目	表示無し
ユーザー任意1	YrYn
ユーザー任意2	
ユーザー任意3	
接点入力ON時	SHORTEN
接点入力OFF時	OPENED
接点出力OFF時	OPENED

通知先設定

No.	種類	通知先アドレス
アドレス1	TO	
アドレス2	TO	
アドレス3	TO	
アドレス4	TO	
アドレス5	TO	
アドレス6	TO	
アドレス7	TO	
アドレス8	TO	

送信条件フラグ

No.	F1	F2	F3	F4	F5	F7	F8
アドレス1	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス2	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス3	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス4	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス5	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス6	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス7	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス8	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
ログ送信回数	0						

F1 PING

F2 温度

F3 スケジュール

F4 UPS

F5 接点IN

F7 ハートビート

F8 InfoOver

メールサーバーエラーメッセージ

エラーメッセージ

クリア

＜1＞メールサーバー設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、受信サーバー名、受信ポート、送信サーバー名、送信ポートはプロバイダからの資料に基づき設定します。

ログアウト時間 (分) デフォルト : 10

メール確認間隔 (分) デフォルト : 3

再接続間隔（秒） デフォルト : 10

(変数mailRetryCountで設定した回数送信します。デフォルト：3回)

形式 [IMAP] [POP3] を選択

SMTP Auth : 認証方法を選択
[CRAM-MD5] [LOGIN]
[PLAIN]

IMAP Auth : 認証方法を選択

[CRAM-MD5] [LOGIN]

APOP利用 ☐ : 有効 ☐ 無効

〈2〉メール制御設定

メール制御コマンド : [有効] [無効]

★「メールサーバー監視」(第4章[3](2))を行うには「有効」を選択してください。

メール制御ユーザー名 : 半角英数字63文字以内

メール制御パスワード : 半角英数字63文字以内

送信メール 件名 [表示無し] [機器名称] [設置場所] [IPアドレス]
[MACアドレス] [イベント内容] [ユーザー任意
1～3] ……(*)より選択します。

送信メール 本文1行目 日時又は積算時間

送信メール 本文2行目
送信メール 本文3行目
送信メール 本文4行目
送信メール 本文5行目

≧ 上記(*) 9点から選択

送信メール 本文6行目

送信メール 本文7行目

送信メール 本文8行目

ユーザー任意1～3 : 任意のメール通知文を設定
(全角21文字, 半角43文字以内)

接点入力ON時
接点入力OFF時

接点に関するメール通知の際の表示を設定することができます。

＜接点出力ON時は状態によって通知する表示が変化します。表示の変更ができない仕様です。＞

＜3＞通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレス、それぞれ「TO/CC/BCC」を設定します。

最大8件設定できます。

★メール制御は、ここに設定したメールアドレスからのみ有効です。

＜4＞送信条件フラグ

送信条件フラグ

7種類〔PING〕〔温度〕〔スケジュール〕〔UPS〕〔接点IN〕〔ハートビート〕〔InfoOver〕から選択できます。チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。たとえば、〔PING〕では死活監視が〔異常〕または〔回復〕に変化した時にメールを送信します。

ログ送信回数 : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。
 (MAX: 20) (0の時は送信しません。)

＜5＞メールサーバーエラーメッセージ

メールに失敗したエラー情報を表示します。

クリアにチェックして〔適用〕をクリックすると消去できます。

＜メールサーバーのチェックは「ネットワーク設定」→「詳細設定」→「ネットワークテスト」の「送信テスト」のところからできます。＞

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させテストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

注意

〔適用〕ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、〔CPUリセット〕ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用でPOP/IMAP認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデータを設定してください。

設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後、削除されます。

[3] 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

(1) PING監視

Ping 監視設定						
1	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象	
	1		☐	10	10	1 ▾
	2		☐			
	3		☐	動作	回数	間隔
4		☐	無動作 ▾	1	1	
2	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象	
	1		☐	10	10	1 ▾
	2		☐			
	3		☐	動作	回数	間隔
4		☐	無動作 ▾	1	1	
3	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象	
	1		☐	10	10	1 ▾
	2		☐			
	3		☐	動作	回数	間隔
PING 送信間隔 (分)				1		
死活監視レポートによる警告 (回)				12		
回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)						
1	0	2	0	3	0	
4	0	5	0	6	0	
7	0	8	0			

＜1＞PING監視設定

「監視先アドレス」： 監視するIPアドレスまたはドメイン名を設定します。

各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。

例 IPアドレス ： 192.168.0.1

例 ドメイン名 ： www.meikyo.co.jp

「DG」： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。

「送信」： 判断するための送信する回数を設定します。(1～100の整数)

「無答」： 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。(1～100の整数)

「対象」： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数(1～4)を設定します。

「動作」： 動作を選択します。

無動作 : PING監視を行いません。

Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。

Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。

「回数」： 再Reboot回数を設定します。

「間隔」： 再Reboot間隔（単位：分）を設定します。

「PING送信間隔(分)」： ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。

(1～60の整数)

「死活監視リポートによる警告(回)」： デフォルト 12回

PILOT LEDを点滅させる全アウトレットの死活監視リポート回数

〈2〉回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)

各アウトレット番号：デフォルト 0（無制限）

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「緑色」に変わります。

また、PING監視が正常な場合は監視番号の背景色が「緑色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意

「動作」実行後、応答のない状態が続く場合は、約1時間ごとに設定された動作を実行します。「異常」中は、再度、条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。

また、ハートビートによる監視設定がされている場合は、PING監視は実行されません。

【PING監視の仕組みと動作】

監視先アドレスに対して[PING送信間隔]で設定した間隔でICMPエコー要求パケットを1個送出し、応答を待ちます。

設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を「異常」と判断します。

「異常」と判断された監視先が[対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

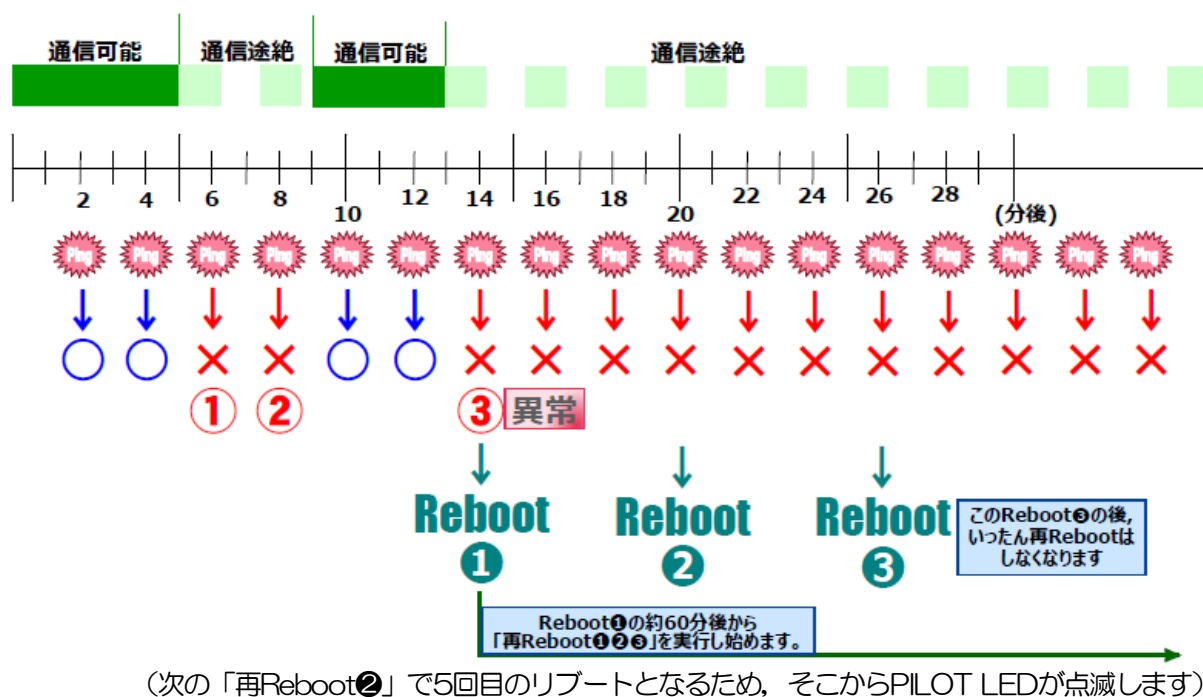
[動作]が[Reboot]の場合、「再Reboot間隔(分)」ごとに「再Reboot回数」だけリブートを繰り返します。

(例) 「PING送信間隔」を「2(分)」,
「死活監視リポートによる警告」を「5(回)」,
「送信」を「5(回)」,
「無答」を「3(回)」,
「動作」を「Reboot」,
「回数」を「3(回)」,
「間隔」を「6(分)」に設定した場合。

	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	192.168.1.xxx	☐	5	3	1
2		☐			
3		☐			
4		☐			

	動作	回数	間隔
1	Reboot	3	6

PING 送信間隔 (分)	2
死活監視リポートによる警告 (回)	5



(2) メールサーバー監視

監視設定 / メールサーバー

Ping監視 メールサーバー ハートビート 温度監視

メールサーバーが設定されていません。

メールサーバー監視設定

メールサーバー

1	接続エラー回数 0	動作 無動作 ▼
メールサーバー		
2	接続エラー回数 0	動作 無動作 ▼
メールサーバー		
メールサーバー		

メールサーバー状態表示

エラー回数	0
メールサーバー確認間隔(分)	3

＜1＞メールサーバー監視設定

接続エラー回数 : メール受信サーバーを異常と判断する回数を設定します。

動作 : 無動作 : 監視を行いません。

Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。

Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。

動作はPING監視と共通の設定になります。

＜2＞メールサーバー状態表示

エラー回数 : メール受信サーバー接続障害回数を表示します。

メールサーバー確認間隔(分) : メール受信サーバーのチェック間隔
デフォルト 3分
(PING監視の送信間隔の設定が反映されます)

注意

メールサーバー監視を行う場合は「メールサーバー設定」で受信サーバーを正しく設定する必要があります。また「メール制御設定」でメール制御コマンドを有効にしておく必要があります。(「通知先設定」のメールアドレスは空白でも構いません。)

メールサーバー監視とPING監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

(3) ハートビート設定

←
↻
確認設定 / ハートビート

Ping監視
メールサーバー
ハートビート
温度監視

ハートビート設定

ハートビート	○有効 ●無効
送信IPアドレス	
受信ポート	9100
送信ポート	9100
Reboot時間	30
リバース間隔	8
タイムアウト最大回数	3
動作最大回数	3

監視条件設定

ハートビート監視設定

1		動作 無動作 ▼
---	--	---

ハートビート監視設定

2		動作 無動作 ▼
---	--	---

ハートビート監視設定

		動作
--	--	--

ハートビート packets 状態

状態	待機中
送信IPアドレス	
タイムアウト回数 (0 - 32767 loop)	1

<1>ハートビート設定

- | | |
|----------|--|
| ハートビート | : 有効/無効を切り替えます。 |
| 送信IPアドレス | : ハートビート packets が送られてくるIPアドレス
★空白はすべて packets を受け付ける |
| 受信ポート | : packets 待受ポート (デフォルト: 9100) |
| 送信ポート | : PC側(HB側)の送信ポート (デフォルト: 9100) |

Reboot時間	： アウトレットリブート後、パケット受信不可をチェックするまでの時間 (デフォルト：30 設定可能値：1～99(秒))
リバース間隔	： ハートビートパケットを受ける間隔 (デフォルト：8 設定可能値：1～99(秒))
タイムアウト最大回数	： 動作を行うカウント (デフォルト：3 設定可能値：1～99(回))
動作最大回数	： リブートの場合の実行回数限度 (デフォルト：3 設定可能値：1～99(回))

●ハートビートを利用するには「ハートビート」を「有効」にし[適用]をクリックします。その後、「CPUリセット」を行う必要があります。

<2>監視条件設定

アウトレットごとの動作を選択します。

	パケットを受信	タイムアウト発生中
無動作	無変化	無変化
On	無変化	Onに変化
On追従	On→Offへ	Off→Onへ
Off	無変化	Offに変化
Off追従	Off→Onへ	On→Offへ
Reboot	無変化	Reboot

<3>ハートビートパケット状態

状態	： 待機中／タイムアウト発生中／パケットを受信
送信IPアドレス	： ハートビートパケットが送られてきたIPアドレスを表示します。
タイムアウト回数	： 未受信カウントを表示します。

【ハートビートに必要なパケット形式】

UDPパケットのデータ“xxxxxHB”＋CRLFの9文字を受け，“xxxxxACK”の8文字を返します。
(xxxxxは任意)

(4) 温度監視

「温度監視」を行うには別売の温度センサー（RP-TS004）が必要です。

また、「システム設定」→「基本設定」→「温度センサー設定」で「温度センサー」の項目を「有効」にしなければなりません。

注意 TEMPには弊社温度センサー（RP-TS004）以外差し込まないでください。また、温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

←

確認設定 / 温度監視

↻

Ping監視

メールサーバー

ハートビート

温度監視

監視条件設定

設定状態

1

動作

無動作

設定状態

2

動作

無動作

設定状態

動作

温度状態 (℃)

状態

正常

現在温度

26.8

最大温度

2017/10/18 11:41
26.8

最小温度

2017/10/18 11:41
26.5

指定温度設定

上限警報

45

上限注意

35

上限Hys

2

下限警報

-5

下限注意

0

下限Hys

2

＜1＞監視条件設定

動作 : 警報の時の動作を設定します。
無動作／上限警報ON／下限警報ON
上限警報OFF／下限警報OFF

＜2＞温度状態(℃)

状態 : 正常／上限注意／上限警報／下限注意／下限警報
「現在温度」, 「最大温度(上段:計測された時刻, 下段:最大温度)」, 「最小温度(上段:計測された時刻, 下段:最小温度)」を表示しています。

＜3＞指定温度設定

上限警報 : 高温の警報温度を設定します。
(デフォルト: 45℃)
上限注意 : 高温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 35℃)
上限Hys : 高温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2℃)
下限警報 : 低温の警報温度を設定します。
(デフォルト: -5℃)
下限注意 : 低温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 0℃)
下限Hys : 低温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2℃)

注意 「温度監視」を設定すると、「PING監視」は設定できません。
--

温度監視の仕組みと動作

状態は、指定した温度により、「正常」から「注意」, 「注意」から「警報」に変化します。
しかし、「警報」から「注意」, 「注意」から「正常」への状態変化には、指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。

メールは、温度にチェックがあると、「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。

電源制御は、「警報」になった場合に実施されます。

[4] スケジュール設定

注意 本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTPサーバーの設定（第4章2.1~2<3>）を行ってからご使用ください。

本装置のスケジュールに関する設定をします。

スケジュールは、一日のパターンを分単位で作成し、そのパターンを指定の曜日、月日に割り当てることにより作成します。パターンは最大20個まで作成できますから、週中と週末のパターンを変えたり、特定の日や、休日用のパターンを作成したりできます。

注意 デイジーチェーン接続時、アウトレット9~16に対してスケジュール設定を行うことはできません。

(1) スケジュール動作



(2) (3) で作成・配置したスケジュールの「実行」「停止」を設定します。

(2) スケジュール配置



スケジュール配置では、アウトレットごとにパターンをカレンダーに割り当てて作成します。

1) カレンダー配置するアウトレットの「設定」をクリックします。

① 年月設定



年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

日	月	火	水	木	金	土	曜日指定
-	-	-	-	-	-	-	追加
毎月	□日					-	追加
毎第	- 週 □ 曜					-	追加
毎年	10 月 18 日					-	追加
休日指定	休日テーブルすべて					-	追加
一度指定	2017 年 10 月 18 日					-	追加
読込	指定アウトレットから取り込み					1	読込
削除	リストから指定番号を削除					-	削除

適用保存
戻る

②曜日設定

曜日ごとにスケジュールパターンを配置することができます。

③特定日設定

毎月[]日 : 毎月の特定日に対してスケジュールパターンを配置します。

毎第[]週[]曜 : 毎月の特定週、曜日にスケジュールパターンを配置します。

毎年[]月[]日 : 毎年の特定月日にスケジュールパターンを配置します。

休日指定 : 毎年の休日にスケジュールパターンを設置します。

一度指定 : 特定の年月日にスケジュールパターンを設置します。

④「読込」

アウトレット番号を選択し、「読込」をクリックすると選択したアウトレットと同じスケジュールパターンを配置します。

* 読み込んだ後、適用保存をクリックするとカレンダーの表示が変わります。

⑤「削除」

選択したスケジュールリスト番号を削除することができます。

⑥「適用保存」

クリックして配置したカレンダーを保存します。

2) スケジュール配置先画面に戻りスケジュールの「実行」をクリックします。

注意

スケジュールの優先度は、一度指定 > 休日指定 > 毎年 > 毎第n週x曜日 > 毎月 > 毎x曜日 となっています。
スケジュール設定が設定されるとカレンダーの日付数字の隣にスケジュールパターンの英字が付きます。

またカレンダーの日付をクリックして指定するとその日のスケジュールパターンが表示されます。
週間スケジュール以外の特定日設定は20個までとなります。

(3) スケジュール作成

スケジュール作成	
1日のスケジュールを分単位で作成	パターン作成
休日カレンダーのテーブルを編集	休日テーブル編集
スケジュール関連のデータファイルを管理	データファイル管理

(3)-1 パターン作成

パターン作成では、一日のパターンを作成します。

1) スケジュール設定画面の「パターン作成」をクリックします。

スケジュール設定 / 1日パターン編集

1日パターン表示 (パターン A)

00:00
01:00
02:00
03:00
04:00
05:00
06:00
07:00
08:00
09:00
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
18:00
19:00
20:00
21:00
22:00
23:00

読込 A 読込 パターン 全OFF 全ON

配置範囲 開始 0 時 0 分 終了 24 時 0 分 ON 配置

保存先 A 適用保存 戻る

2) 編集したいパターン [A~J, a~j] を選択し、「読込」ボタンをクリックします。

パターン

「全OFF」：すべてをOFFパターンにします。

「全ON」：すべてをONパターンにします。

配置範囲

： 開始時刻から終了時刻まで、ONもしくはOFFパターンを配置することができます。

3) パターン編集終了後、保存先を選択し「適用保存」をクリックします。

(3)-2 休日テーブル編集

休日テーブル編集ではオリジナルの休日テーブルを作成します。(初期値は一般のカレンダー通り)

1) スケジュール設定画面の「休日テーブル編集」をクリックします。

「休日テーブル編集」画面

①年月設定（右上部分）

年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

②休日指定（カレンダーの下の部分）

月日を指定して、「追加」「削除」を選択し「設定」をクリックします。すると、設定された日が赤文字になります。

③年間カレンダー初期化

「初期化」をクリックするとその年間カレンダーにおいて設定した休日のリセットされます。

2) 設定が終了したら「適用保存」をクリックします。

注意

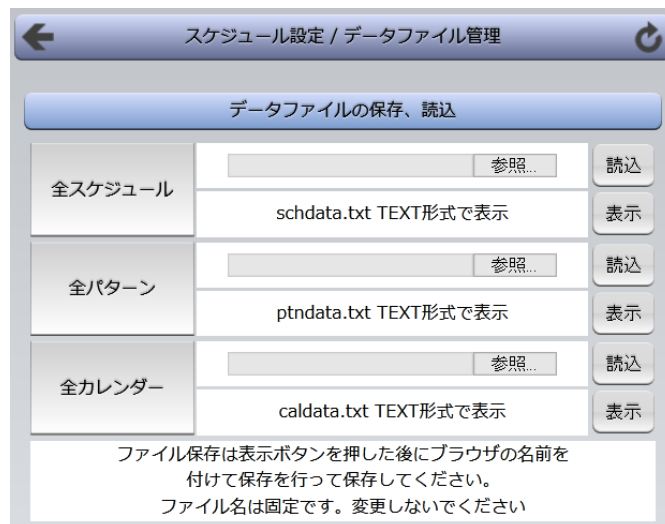
「適用保存」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

休日テーブルは設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(3)-3 データファイル管理

データファイル管理では、設定内容をファイル形式で保存できるようにしたり、他で保存した設定した内容を本装置に読み込ませたりできます。

1) スケジュール設定画面の「データファイル管理」をクリックします。



＜1＞データファイルの保存、読込

保存方法

〔表示〕をクリックすると、別のブラウザが開き設定内容が表示されます。
ブラウザの機能を利用して、「名前をつけて保存」します。(テキストファイル)
ファイル名は変更しないでください。

読込方法

〔参照〕をクリックしてファイルを選びます。保存したファイルを選択します。
ファイル名が表示されたら〔読込〕をクリックします。

全スケジュールファイル schdata.txt

全パターンファイル ptndata.txt

全カレンダーファイル caldata.txt

(休日カレンダー情報含む)

＊ 読み込んだ後、CPUリセットにより設定が反映されます。

注意

「スケジュール機能」はアウトレットごとに〔実行〕をクリックする必要があります。

〔適用〕ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(4) コマンドによるスケジュールデータファイル保存／読込

TELNET通信及びシリアル通信を介してコマンドによるスケジュールデータファイル保存，読込が出来ます。

- アップロードの開始
SCHUPLOAD _ n (短縮形：SCHUL) (※ _ はスペースを表します)
n：パラメータ
 1：スケジュールデータ
 2：パターンデータ
 3：カレンダーデータ
リザルトコード
 230：コマンド受理，データ転送待ち状態
 231：正常終了
- アップロードを中断
SCHUPLOADCANCEL (短縮形：SCHULC)
リザルトコード
 232：正常終了
- ダウンロードの開始
SCHDOWNLOAD _ n (短縮形：SCHDL) (※ _ はスペースを表します)
n：パラメータ
 1：スケジュールデータ
 2：パターンデータ
 3：カレンダーデータ

注意	TELNET通信及びシリアル通信の接続は「第5章 その他の設定」を参照してください。
-----------	--

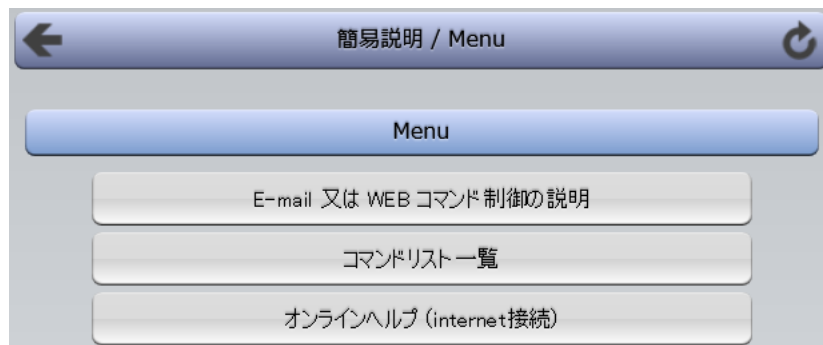
[5] システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

システム情報	
基本システム情報	
機器名称	Noname
バージョン	0.66A.171017
モデル名称	RSC-MT8FS
アウトレット数	8
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
アウトレット5名称	Outlet5
アウトレット6名称	Outlet6
アウトレット7名称	Outlet7
アウトレット8名称	Outlet8
接点出力1名称	NV Output1
接点入力1名称	NV Input1
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	
MACアドレス	00:09:EE:00:81:2B
IPアドレス	192.168.1.208
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
機器内部時間	2017/10/18 14:24:51
NTPアドレス	
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
TELNET機能	有効
TELNETポート	23
LAN速度	100.0Mbps
RS-232C 通信速度	38400bps
RS-232C キャラクター長	8 bits
RS-232C ストップビット	1 bit(s)
RS-232C パリティ	None
DIP-SW	1:OFF 2:OFF 3:OFF 4:固定

[6] 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。



<1>Menu

「E-mail又はWEBコマンド制御の説明」

メールを利用して電源制御

WEBによるコマンドの送信方法

コマンドリスト一覧

コンソール制御

オンラインヘルプ(internet接続)

3. 状態表示項目

[1] 簡易状態表示

現在の本装置の電源情報、接点入出力情報、温度状態を表示します。

1) 「簡易状態表示」をクリックします。

簡易状態表示

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2			OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF
5	Outlet5			OFF
6	Outlet6			OFF
7	Outlet7			OFF
8	Outlet8			OFF

温度 (℃)

26.2

温度センサー1
2017/10/18 14:29:40

2017/10/18 11:42 26.9 MAX
2017/10/18 13:49 24.5 MIN

2017/10/18 14:28 26.25
2017/10/18 14:27 26.20
2017/10/18 14:26 26.25
2017/10/18 14:25 26.20

接点情報

接点出力連動設定		連動無し	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF

注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。
温度センサーを「有効」に設定しないと温度状態は表示されません。

[2] 詳細状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

詳細状態表示

機器情報

機器名称	Naname
設置場所	Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	監視状態	実行回数	電源状態
1	Outlet1		0	OFF
2	Outlet2	正常	0	OFF
3	Outlet3	正常	0	OFF
4	Outlet4		0	OFF
5	Outlet5		0	OFF
6	Outlet6		0	OFF
7	Outlet7		0	ON
8	Outlet8		0	OFF

監視設定内容

No.	送信数	無応答	対象	動作
1	10	10	1	無動作
2	1	1	1	Reboot
3	1	1	1	Reboot
4	10	10	1	無動作
5	10	10	1	無動作
6	10	10	1	無動作
7	10	10	1	無動作
8	10	10	1	無動作

監視状態

No.	対象1		対象2		対象3		対象4	
	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								

PING 応答時間

No.	対象1	対象2	対象3	対象4
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

温度監視設定 (℃)

26.3

温度センサー1
 2017/10/18 14:37:50

2017/10/18 11:42 26.9 MAX
 2017/10/18 13:49 24.5 MIN

 2017/10/18 14:37 26.25
 2017/10/18 14:36 26.25
 2017/10/18 14:35 26.35
 2017/10/18 14:34 26.25

No.	動作設定	警報	注意	hys	状態
1					
2					
3					
4					
5	上限警報OFF	45	35	2	正常
6					
7					
8					

接点情報

接点出力連動設定		連動無し	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF

ハートビート状態表示

No.	動作	実行回数	バケット
1	無効	0	
2	無効	0	
3	無効	0	
4	無効	0	
5	無効	0	
6	無効	0	
7	レポート	3	
8	無効	0	

タイムアウト発生中
 未受信カウント 13
 (32767超えた場合0に戻ります)

メールサーバー監視状態

エラー回数	0
-------	---

UPS連動情報

UPS名称	
給電状態	未設定
バッテリー状態	未設定
商用入力異常回数	0

＜1＞機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

＜2＞アウトレット状態

- 監視状態 : 「PING監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。
正常: 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。
異常: 異常な監視先が対象数以上, あるいはメールサーバー異常。
回復中: 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。メールサーバーは正常。
実行回数 : PING監視とメールサーバー監視の実行された動作の回数を表示します。
電源状態 : 現在の電源状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

＜3＞監視設定内容

PING監視に関する情報を表示します。

- 送信数 : PING監視のICMPエコー要求送信回数設定値を表示します。
無応答 : PING監視の無応答回数を表示します。
対象 : PING監視の対象数設定値を表示します。
動作 : PING監視とメールサーバー監視の動作を表示します。

＜4＞監視状態

- 状態 : アウトレットごとに各監視先の応答状態を表示します。
無応答数 : ICMPエコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

＜5＞PING応答時間

- 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

＜6＞温度監視設定(℃)

- 緑枠内の温度 : 現在の温度を表示します。
緑枠の下枠 : その温度を取得した日時を表示します。
緑枠右の欄 : 20件のログを表示します。それより過去のは消去されます。最初の2行に「最大温度」「最小温度」とそれが取得された日時を表示します。
*ログ間隔は「システム設定」にて変更できます。(デフォルト: 10分)【第4章1<5>参照】
動作設定 : 温度監視の動作設定を表示します。
警報 : 「警報温度」を表示します。
注意 : 「注意温度」を表示します。
hys : 「ヒステリシス温度」を表示します。
状態 : アウトレットごとに各監視先の応答状態を表示します。

＜7＞接点情報

- 接点出力連動設定 : 接点出力連動の有無, 種類を表示します。
- 接点出力名称 : 接点出力の名称を表示します。
- 連動 : 連動している条件を表示します。
(「リバース」を選択している時は「R」が表示されます)
- 接点 : 現在の接点の状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)
- 接点入力名称 : 接点入力の名称を表示します。
- 接点 : 現在の接点の状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

＜8＞ハートビート状態表示

- 動作 : 動作状態を表示します。
- 実行回数 : 実行数を表示します。
- パケット状態 : パケット状態を表示します。

＜9＞メールサーバー監視状態

- エラー回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。

＜10＞UPS連動情報

- UPS名称 : 現在設定されている名称を表示します。
- 給電状態 : 未設定／正常／バックアップ
- バッテリー状態 : 未設定／正常／低電圧
- 商用入力異常回数 : 商用電源からの入力の異常回数を表示します。

[3] イベントログ

現在までのイベントログを表示します。

<1>ログリスト

ID	Timestamp	Event Name	User
116	2017/10/18 09:44:43	WEBログアウト	
117	2017/10/18 10:25:47	WEBアクセス	
118	2017/10/18 10:26:13	WEBログイン	admin
119	2017/10/18 10:43:41	WEBログアウト	
120	2017/10/18 10:54:25	WEBアクセス	
121	2017/10/18 10:54:26	WEBアクセス	
122	2017/10/18 10:54:30	WEBログイン	admin
123	2017/10/18 11:00:49	設定変更	admin
124	2017/10/18 11:00:49	設定変更	admin
125	2017/10/18 11:00:49	設定書込(WRITE)	admin
126	2017/10/18 11:00:57	コールドスタート	admin
127	2017/10/18 11:00:57	電源操作(ON)	admin
128	2017/10/18 11:00:57	データログスタート	admin
129	2017/10/18 11:01:05	WEBアクセス	
130	2017/10/18 11:01:10	WEBログイン	admin
131	2017/10/18 11:01:46	設定変更	admin
132	2017/10/18 11:01:46	設定書込(WRITE)	admin
133	2017/10/18 11:01:53	コールドスタート	
134	2017/10/18 11:01:53	電源操作(ON)	admin
135	2017/10/18 11:01:53	データログスタート	
136	2017/10/18 11:02:01	WEBアクセス	
137	2017/10/18 11:02:23	WEBログイン	admin
138	2017/10/18 11:12:27	WEBログアウト	
139	2017/10/18 11:30:02	WEBアクセス	
140	2017/10/18 11:30:07	WEBログイン	admin
141	2017/10/18 11:30:26	設定変更	admin
142	2017/10/18 11:30:26	設定変更	admin
143	2017/10/18 11:30:26	設定変更	admin
144	2017/10/18 11:30:26	設定変更	admin
145	2017/10/18 11:30:26	設定書込(WRITE)	admin
146	2017/10/18 11:30:32	コールドスタート	
147	2017/10/18 11:30:32	電源操作(ON)	admin
148	2017/10/18 11:30:32	データログスタート	
149	2017/10/18 11:30:40	WEBアクセス	
150	2017/10/18 11:30:44	WEBログイン	admin
151	2017/10/18 11:31:02	ハートビート監視(HEBOOT)	アウトレット2
152	2017/10/18 11:31:56	ハートビート監視(HEBOOT)	アウトレット2
153	2017/10/18 11:32:25	ハートビート監視(ON)	アウトレット3
154	2017/10/18 11:32:53	ハートビート監視(HEBOOT)	アウトレット2
155	2017/10/18 11:32:53	ハートビート監視(OFF)	アウトレット3
156	2017/10/18 11:33:25	ハートビート監視(ON)	アウトレット3
157	2017/10/18 11:34:04	ハートビート監視(HEBOOT)	アウトレット2

表示領域	機器時刻
116 - 215 (総数 215)	2017/10/18 14:39:20

前ページ

次ページ

先頭ページ

最終ページ

Text 表示

全ログクリア

- 前ページ : 前ページを表示します。
- 次ページ : 次ページを表示します。
- 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- 最終ページ : 最終ページを表示します。
- Text表示 : WEB画面上でテキスト表示し、それをコピーしたり保存したりできます。
- 全ログクリア : ログを消去します。

注意 1ページは100項目単位で表示します。最大10ページ、1000項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

[1] 電源制御

No.	名称	制御			電源状態
1	Outlet1	ON	OFF	Reboot	OFF
2	Outlet2	ON	OFF	Reboot	OFF
3	Outlet3	ON	OFF	Reboot	OFF
4	Outlet4	ON	OFF	Reboot	OFF
5	Outlet5	ON	OFF	Reboot	OFF
6	Outlet6	ON	OFF	Reboot	OFF
7	Outlet7	ON	OFF	Reboot	ON
8	Outlet8	ON	OFF	Reboot	OFF
	All Outlets	ON	OFF	Reboot	

〈1〉機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉アウトレット情報

- 名称 : 設定されている各アウトレット名称を表示します。
制御 : ON : 電源出力を開始します。
OFF : 電源出力を停止します。
Reboot : 電源出力をOFF→ONします。
電源状態 : 現在の電源状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)
All Outlets : 全アウトレットの電源出力に対して、ON/OFF/Rebootを行うことができます。

注意 電源制御画面は「ネットワーク設定」「基本設定」→「html表示設定」→「自動ページ更新時間(秒)」に基づき、常時自動で更新されます。

[1]-1 接点制御

電源制御 / 接点出力

電源制御 仮想制御 一斉制御 接点制御

機器情報

機器名称 Noname
設置場所 Nowhere

接点情報

接点出力連動設定			連動無し	
No.	接点出力名称	連動	制御	接点
1	NV Output1		ON OFF	OFF

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF

＜1＞機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

＜2＞接点情報

- 接点出力連動設定 : 接点出力連動の有無、種類を表示します。
接点出力名称 : 接点出力の名称を表示します。
連動 : 連動している条件を表示します。
(「リバース」を選択している時は「R」が表示されます)
接点 : 現在の接点の状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)
接点入力名称 : 接点入力の名称を表示します。
接点 : 現在の接点の状態を表示します。
(更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

[2] 仮想制御

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされたMACアドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN機能を実現させるためのものです。

No.	仮想アウトレット名称	WOL 送信
1		ON
2		ON
3		ON
4		ON
5		ON
6		ON
7		ON
8		ON
全仮想アウトレット		ON

<1>機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

<2>仮想アウトレット(WOL)

- 仮想アウトレット名称 : 現在設定されている仮想アウトレット名称を表示します。
WOL送信 : 指定の仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。
全仮想アウトレット : 全仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。

[3] 一斉制御

一斉制御とは、複数の本装置を最大8グループ分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来る機能です。



＜1＞一斉制御コマンド

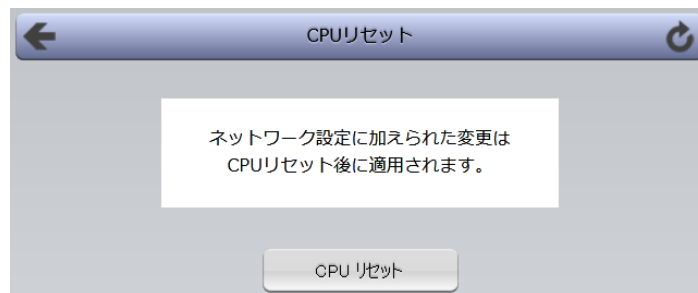
- | | | |
|--------|---|-----------------------------------|
| グループ指定 | : | 制御するグループを選択します。 |
| 制御 | : | 実行する動作
PowerON PowerOFF Reboot |
| 送信 | : | 一斉制御コマンドを送信します。 |

★本装置を、一斉電源制御を受け付ける状態に設定したい場合はメンテナンスモード（DIPスイッチ3がON）にてグループ設定をする必要があります。（一斉電源制御を受け付ける状態になると、WEB画面での操作はできなくなります。TELNET通信においてSupervisor権限でのログインは可能です。）設定方法は本書の第3章3.をご覧ください。

注意	「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。 全アウトレットONの時、個別アウトレットは1秒の間隔でONします。（遅延時間、デフォルト） リブートのOFF時間は10秒です。（デフォルト） 遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。
-----------	---

5. CPUリセット

本装置の設定変更を有効にします。



1) CPUリセット画面の「CPUリセット」をクリックします。

注意

CPUリセットを必要とする内容の場合、各設定後に[適用]をクリックすると「CPUリセットを実行して、設定に変更を適用する必要があります。」という黄色い表示が現れます。

「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第5章 その他の設定

1. TELNETによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス	: 192.168.10.1
TELNETポート番号	: 23

「telnet_ 192.168.10.1 _ 23」

※_はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220  RSC-MT8FS  (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。ユーザーIDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

注意

ブラウザ接続時のパスワードとTELNET接続時のパスワードは別になります。TELNET接続時とシリアル接続時のパスワードは共通になります。PASSコマンドで変更してください。デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

[1] TELNETコマンドによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、TELNETで本装置にログインします。
- 2) 設定します。コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ TELNET通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

※変数については「■変数一覧表」参照

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。(※下記参照) 設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。) ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1とします。

※保存されないもの

- TELNET用のパスワード
- (Read Only) の変数
- スケジュールデータ [schOl(n)Schxxx]

→スケジュールの保存方法は第4章2.[4](3)-3<1>を参照。

※シャットダウンスクリプトの内容は保存されます。

■ プロンプトやコマンドについて

TELNETからアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「>」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 >」のプロンプト表示)

■ SSH通信からの設定について

TELNETと同じようにSSH通信からも設定を行うことができます。

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOM.1ポートをパソコン用クロスケーブル(Dsub9ピンメス)で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	:	38400bps
データビット	:	8ビット
ストップビット	:	1ビット
パリティ	:	なし

3) 任意のキーを入力します。ユーザーIDとパスワードが要求されます。

4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 設定します。

コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。

6) 設定内容を有効化します。

「write」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意	電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。
-----------	---

7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドはTELNETと共通です。ただしPASSコマンドはご利用いただけません。

第6章 その他の制御

1. TELNET接続による制御

本装置はTELNETサーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。(SSH通信でも同じことが行えます。)

[1] TELNET接続による制御

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」(またはWindowsキー+Rキー)を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、TELNETで本装置にログインします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス	: 192.168.10.1
TELNETポート番号	: 23

「telnet_ 192.168.10.1 _23」

※_はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220 RSC-MT8FS (Noname) server ready

- 3) 任意のキーを入力します。ユーザーIDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID(デフォルト: admin)とパスワード(デフォルト: magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 5) 制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。

注意 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

応答コマンド

正常受付	: Command OK
不正なコマンド	: Unrecognized command
前コマンドの処理中のためコマンド実行せず	: Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力で電源制御ができます。

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル（Dsub9ピンメス）専用ケーブルで接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	:	38400bps
データビット	:	8ビット
ストップビット	:	1ビット
パリティ	:	なし

3) 任意のキーを入力します。ユーザーIDとパスワードが要求されます。

4) パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 制御コマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。コマンドは「1.TELNET接続による制御」と共通です。

※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

注意	電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。
-----------	---

3. モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

- 1) 本装置COMポートを接続するモデムに合わせて設定します。
- 2) 本体前面のCOMポートとモデムをストレートケーブルで接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されるとユーザーIDとパスワードが要求されます。
- 5) ユーザーID（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<Enter>キーで実行します。コマンドは「1.TELNET接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

注意	モデム制御ではストレートケーブルモデムが必要です。 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。
-----------	--

4. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

1. 本装置にメールを送信します。

件名（タイトル）は特に必要ありません。

本文1行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。

本文2行目に「メール制御パスワード」を入力します。

本文3行目以降にコマンドを入力します。

- コマンドを記入し改行を入れます。

- コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。

「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトします。

2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

注意 「メール制御ユーザー名」「メール制御パスワード」については、第4章2.[2](3)「メール制御設定」をご覧ください。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、メール制御にて新たにログインして制御することができません。

5. WEBコマンドからの制御

WEBからダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEBコマンドでの制御方法

WEBコマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

〔「HTTP認証」が「None」の場合〕

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command=[利用コマンド]

例) ユーザーID : admin / パスワード : magic / コマンド : por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」、「password」→「p」、「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

〔「HTTP認証」が「Basic」「Digest」〕

?command=[利用コマンド]

例) コマンド : por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」、「password」→「p」、「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?c=por3

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv [ident control supervisor admin]

VER POS XPOS OLS OLSn

TEMP TOS TOSn TSP

SSO SSO_n SSI SSIn

SON_n SOFn MSON MSOF

利用可能ユーザーLv [control admin]

PON_n POF_n POR_n MPON MPOF

MPOR PSR_n

注意 第4章 2. 1<1>機器情報, [2](1)<3>ダイレクトWEBコマンドの各項目を設定してご利用ください。

第7章 ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) TELNETによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を0ビットとし、31ビットの構成になっています。

0：無, 1：有

ビット

30 : 未使用
29 : 未使用
28 : 接点出力状態変化
27 : 接点入力状態変化
26 : 未使用
25 : スクリプト実行/失敗
24 : 未使用
23 : SSHサーバ接続/切断
22 : 未使用
21 : NTPアクセス
20 : シリアルログイン・ログアウト
19 : 未使用
18 : 温度状態変化
17 : 変数設定, write
16 : 未使用
15 : モデムログイン・ログアウト

ビット

14 : モデム接続・切断
13 : TELNETログイン・ログアウト
12 : TELNET接続・切断
11 : WEBログイン・ログアウト
10 : WEB接続
9 : メールログイン・ログアウト
8 : メール不正アクセス
7 : ユーティリティログイン・ログアウト
6 : ユーティリティ接続・切断
5 : 電源障害等
4 : 電源制御コマンド
3 : 未使用
2 : PING監視によるイベント
1 : PING無応答
0 : PING送信

TELNET通信による設定例

- PING監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合
.logMode=0000000000000000000000000110100
- 全て表示する場合
.logDisp=111111111111111111111111111111111111（デフォルト）
- 接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
変数を変更せずにLOGDISPコマンドで表示を変更できます。
LOGDISP=000000000000010000000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示（連番号順）
LOG n	ログの表示（最新n個）
	e = t ログ開始からの経過秒＝現在時刻
LOGTIME	e0 = t0 NTP接続までの経過秒＝最初の取得時刻
	NTP無効の場合はeのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は20項目です。

<Enter>キーで続きの20項目を表示します。

■ ログの表示形式

```
nnn  ttt  a  b  xxxxxxxx  c
```

nnn	:	連番号
ttt	:	NTP無効時:記録開始からの時間(秒)
yy.mm.dd hh:mm:ss	:	NTP有効時:年月日時分秒
a	:	アウトレット番号
b	:	PING送信先番号(1~8番)
xxxxxxxx	:	イベント
c	:	IPアドレス

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	PING送信
No Echo	PING無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源ON
Outlet Off	電源OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート）
アクセスによるイベント（接続先IDが表示されます。）	
--> WEB	WEB接続
=> WEB	WEBログイン
<= WEB	WEBログアウト（切断）
<-- WEB	ログインしないで切断
MAIL, TELNETの接続・ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTPサーバ接続エラー。3回続けて失敗した場合。
NTP --- hh:mm:ss	NTPサーバ接続
SSHServerConnected	SSHサーバ接続
modelに関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー

第8章

シャットダウン スクリプト

1. スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常に電源出力停止できます。

[1] スクリプトの基本動作

- ① アウトレットがOFF命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF命令はコマンド、温度監視、スケジュール、PING監視、ハートビート、UPS連動より出されます。
- ② 指定のIPアドレス、ポートにTELNET接続またはSSH接続を行います。
- ③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。
- ④ スクリプト実行後、以下の条件で電源をOFFします。
 - ・PING応答確認有りの場合：シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でPING監視を行い応答が無くなるか、またはシャットダウン遅延時間がタイムアップした時
 - ・PING応答確認無しの場合：シャットダウン遅延時間がタイムアップした時
(スクリプトの終了コードにより電源OFF条件を定めることができます。)
- ⑤ SSH接続は同時には1個だけ可能です。複数ある場合は、他のSSH接続が終わってから接続することになります。SSHサーバーが接続している場合は、強制的に切断します。

[2] 設定

(第4章2.[1](2)-1<1>をご参照ください。ブラウザから設定できます。)

本機をTELNET接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。(アウトレットごとに以下の設定をします。)

IPアドレス	:	debOIShutdownAddr
Port番号	:	debOIShutdownPort
		0を指定すると、TELNETなら23, SSHなら22と見なします。
スクリプト番号	:	debOIShutdownScript
スクリプトの有効/無効	:	debOIShutdownEnabled
サーバ名 (ID)	:	debOIShutdownName
パスワード	:	debOIShutdownPassword
PING実行先	:	debOIShutdownPingAddr
		PINGでシャットダウン終了を確認します。 IPアドレスまたはドメイン名を設定します。
PING間隔	:	debOIShutdownPingInterval
PING回数	:	debOIShutdownPingCount
PING限度	:	debOIShutdownPingMax
電源OFF条件	:	debOIShutdownOffMax

[3] ログ

- ① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数はdebOIShutdownExitとdebOIShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

[4] エラー処理

- ① 接続できない時
シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でリトライします。
接続できなければ、終了コード254で終了します。
- ② 切断された時
接続後に切断されたときは、終了コード253で終了します。

[5] テキスト仕様

- ① 条件
 - ・ テキストサイズは、2Kbyteまでです。
 - ・ テキスト行数は250行までです。
 - ・ テキストの第1行は、TELNETまたはSSHとします。
 - ・ 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
 - ・ スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
 - ・ 2バイト文字にも対応しています。
- ② スクリプト関数詳細

文字列	:	二重引用符”で囲みます。 CRコードは¥r, LFコードは¥nで表します。 また、1個の¥は¥¥で、1個の”は¥”で表します。 制御コード等は¥xnnでnnは2桁の16進数で表します。 (長さは最大63バイト)
timeout 時間	:	単位秒。スクリプトタイムアウト 最大1023 (秒)(スクリプト例は600秒) 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 (終了コードは255)
delay 時間	:	単位100ミリ秒、一時停止、最大1023
goto ラベル	:	指定ラベルに飛びます。
ラベル	:	ラベルは1~99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	:	スクリプト終了 終了コードは0~255。省略は0 変数debOIShutdownExitに設定されます。
send 文字列	:	文字列を送信する。
recv	:	データを受信バッファに受信する。
recv 時間 goto ラベル	:	データを受信バッファに受信します。(時間の単位は秒) 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	:	
if 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	:	
/	:	コメント 各文の終わりにも/を置いてコメントを書くことができます。

set 文字列	:	メッセージ変数debOlShutdownMsgに文字列を入れます。
sendname	:	サーバ名 (ID) をCRコードつきで送信します。
sendpassword	:	パスワードをCRコードつきで送信します。

③ スクリプト例 (Windows用)

```

TELNET
//強制タイムアウト時間 600秒
timeout 600
//ユーザーログイン, パスワード確認
1:
recv 10 exit 91
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 92
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit

```

注意	デフォルトでは「timeout 600」になっていますが、環境に合わせて数値を変更してください。
-----------	--

注意	シャットダウンされる側のパソコンは、TELNETまたはSSHサーバ機能が有効になっている必要があります。
-----------	--

弊社のホームページで公開している「MRCシャットダウンSv」をご利用いただくことも可能です。[\(https://www.meikyo.co.jp/archive/\)](https://www.meikyo.co.jp/archive/)

④ スクリプト入力

SCRIPTコマンドで始めます。

SCRIPT 番号

番号は1～8

ENDSCRIPTコマンドで終わります。

変数script1～script8に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。

エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

[6] PING確認について

スクリプト実行が終了したなら、終了コードが何であってもPING確認を実行します。

PING確認では、PING実行先が指定されていれば、指定間隔でPINGを送信します。

PING回数だけ連続して未応答なら、PING確認を終了します。

PING限度だけ送信したなら、PING確認を終了します。

PING実行先が指定されていなければ、すぐにPING確認を終了します。

PING確認を終了したなら、debOIShutdownTimeの遅延後にアウトレットの電源をオフします。

第9章

無停電電源装置 (UPS)との連携

1. 本機と無停電電源装置(UPS)の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

※UPSご利用の際は、シリアル・モデム通信は使用できません。

- 1) UPSと本機とを専用通信ケーブルで接続します。
Windows標準のUPSサービスを利用します。専用通信ケーブルについては、各UPSメーカーにご相談ください。
- 2) 本体前面DIPスイッチ.1をON（下）にし、リセットスイッチを1秒ほど押します。
- 3) 本機の電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。
- 4) UPSの電源出力を開始します。

2. 機器設定

（第4章2.[1](2)<7>UPS連動設定をご参照ください。ブラウザから設定できます）
本機をTELNET接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① UPS名称
変数 : upsIdentName
全角10文字、半角英数字20文字以内
- ② UPSモニタ時間間隔（秒）
変数 : upsMonitorInterval
デフォルト : 10
(0~60, 0は1と見なす。)
- ③ UPSシャットダウン開始
待機時間（秒）
変数 : debMasterUpsAlarmWaitTime
デフォルト : 120
(-1~300, -1の場合はシャットダウン無効)

UPSから電源障害信号を受け取った後、設定された時間が経過すると、本機はシャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害回復を検知した場合には、通常状態に戻ります。

- ④ UPSシャットダウン有効化
 変数 : debMasterEnableUpsShut
 デフォルト : 2
 (1:有効 2:無効)
- ⑤ 給電状態
 変数 : upsOutputSource
 デフォルト : 1
 0,1:未設定 3:正常 5:バックアップ
- ⑥ バッテリ状態
 変数 : upsBatteryStatus
 デフォルト : 1
 0,1:未設定 2:正常 3:低電圧
- ⑦ UPS論理
 変数 : upsSignalLevel
 デフォルト : 15

制御フラグ (4bit)			
④	③	②	①

0:負 1:正

- ①停電検知レベル デフォルト:正
 ②ローバッテリー検知レベル デフォルト:正
 ③未使用 (1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル デフォルト:正

以下は設定例です。

- 例1) ①停電検知レベル 「正」 : 設定値: 15
 ②ローバッテリー検知レベル 「正」 デフォルト
 ③未使用 (1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル 「正」
- 例2) ①停電検知レベル 「正」 : 設定値: 13
 ②ローバッテリー検知レベル 「負」
 ③未使用 (1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル 「正」

第10章 SNMPについて

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理を統合的に行うことができます。

2. 機器設定

本装置をTELNET接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① SNMPのSET, GET有効化
変数 : snmpGetSetEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)
- ② SNMP TRAPの有効化
変数 : snmpTrapEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)
- ③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知
変数 : snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト : 2
(1:有効 2:無効)
- ④ TRAP送信回数
変数 : snmpTrapSendN
デフォルト : 1
(1~9)
- ⑤ TRAP送信間隔 (秒)
変数 : snmpTrapSendInterval
デフォルト : 1
(1~9)
- ⑥ TRAP送信先アドレス
変数 : snmpTrapAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所)

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 0
 (0 : 無効 1 : 有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
 変数 : snmpFilterAddr
 デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0
 (10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255
 (10箇所)
- ⑩ SNMP GETコミュニティ名
 変数 : getCommunity
 デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SETコミュニティ名
 変数 : setCommunity
 デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAPコミュニティ名
 変数 : trapCommunity
 デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。

当社ホームページ (<https://www.meikyo.co.jp/archive/>) よりMEIKYO.MIBをダウンロードし、ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
-----------	---

第11章

ネットワーク 稼動監視

1. 機器設定

本装置からUDPのパケットを送出し、電源状態を通知することができます。「RPC-EYE v3」（オプション 有償ソフトウェア）を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。（①～④はWEB通信詳細画面により設定できます）

① 状態通知機能

変数	: syslogEnabled
デフォルト	: 0
	0: 無効 1: syslogを送信
	2: MPMPパケットフォーマットで送信
	3: MSRPパケットフォーマットで送信

RPC-EYE v3を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数	: ipAdCenter
デフォルト	: 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0 (8箇所)

RPC-EYE v3を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数	: centerPort
デフォルト	: 5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔（秒）

変数	: centerSendTimer
デフォルト	: 300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数	: centerChangeSendCount
デフォルト	: 3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔（秒）

変数	: centerChangeSendTimer
デフォルト	: 10

2. RPC-EYE v3の利用

RPC-EYE v3は、RPCシリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼働状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼働監視ソフトです。

以下の特長があります。

- 死活監視 温度状態 電源状態の表示と監視
- アイコンによるビジュアルな状態表示
- リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- 温度状態のグラフによる表示
- 受信情報のデータ保存(CSV形式)
- 状態変化時にE-mail又は音による通知機能
- 個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
- 1本のソフトでPC 3台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<https://www.meikyo.co.jp/product/?ca=4>

設定前の確認

- 設定用PCと本装置をLANで確実に接続してください。
- RPC-EYE v3をPCにインストールしてください。
RPC-EYE v3はWindows対応ソフトです。
RPC-EYE v3の設定、利用方法は、RPC-EYE v3説明書(PDFファイル)をご覧ください。

注意	デージーチェーン接続時、RPC-EYE v3では電源状態を正しく見る ことができません。
-----------	---

第12章

ダイジーチェーン 機能

1. 接続方法

本装置2台をシリアルケーブルで接続し、合計16アウトレットに対して電源制御のコマンドの発信、ステータス受信を行うことができます。

《デジチェーン機能を使用する際は、もう1台のRSC-MT8FSとシリアルケーブル1本が必要です。》

「本装置A」を親機に、「本装置B」を子機とするという設定でこの章では説明します。

[1] 親機・子機の設定方法

＜1＞WEB画面上で

1) 「本装置A」のDIPスイッチの3番をON(下)にし、RESETボタンを1秒ほど押します。
本装置Aがメンテナンスモードになります。(メンテナンスモードになると、本装置のIPアドレスは「192.168.10.1」になります。)

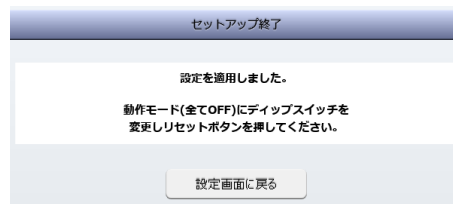
2) 設定するためのPCのIPアドレスも「192.168.10.xxx」に変更し、WEBブラウザで「192.168.10.1」にアクセスします。

注意 Microsoft Edgeではメンテナンスモードの本装置にアクセスすることができません(2018/12現在)。他のブラウザをご使用ください。

3) 【メンテナンスモード 機器設定】画面に「デジチェーン機能」の項目があります。そこに「有効」にします。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	RSC-MT8FS
バージョン	1.00C.181127
MAC アドレス	00:09:EE:00:81:2B
IP アドレス	192.168.1.49
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☒ 有効 ☐ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
デジチェーン機能	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled ▼
ホスト側 MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

4) 【セットアップ終了】画面が現れますが、[設定画面に戻る] を押してください。



5) 再び【メンテナンスモード 機器設定】になります。「デিজリーチェーン機能」の項目に[親機][子機]の選択肢が増えていますので、[親機]を選択します。そして[適用]をクリックします。

モデル名	RSC-MT8FS
バージョン	1.00C.181127
MAC アドレス	00:09:EE:00:81:2B
IP アドレス	192.168.1.49
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☒ 有効 ☐ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
デিজリーチェーン機能	☒ 親機 ☐ 子機
子機グループ	Disabled ▼
ホスト側 MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

6) 再び【セットアップ終了】画面が現れるので、今度は画面の指示に従ってDIPスイッチをすべてOFFにし、RESETボタンを1秒ほど押して通常モードにします。

7) 「本装置B」に関しても1)～6)を繰り返し、5)のところで[子機]を選択してください。

8) 親機、子機の設定が終わった後で、「本装置AのCOM2」と「本装置BのCOM1」をシリアルケーブルで接続してください。

②シリアル接続で

- 1) シリアルコンソールから「本装置A」にアクセスします。そして、DIPスイッチの3番をON(下)にし、RESETボタンを1秒ほど押します。次の画面が表示されます。

```
### Management menu ###  
Version      = RSC-MT8FS 0.67A.171020/HTM08RS.171020  
Physical Address = 00:09:EE:00:81:2B  
  
1) Network  
2) ComPort  
3) System  
  
S) Save  
X) Exit  
  
>
```

- 2) 「3」と入力し、システム項目を表示させます。

```
>3  
### System ###  
  
1) Initialize  
1) Daisy Chain Enabled  
2) Daisy Chain ID  
  
T) Top Menu  
S) Save  
X) Exit  
  
>
```

【システム項目(該当箇所のみ)】

- 1) Daisy Chain Enabled : デイジーチェーン接続の有効/無効を設定できます。
- 2) Daisy Chain ID : デイジーチェーン接続の親機/子機を設定できます。

- 3) 「1」を入力すると、次の画面が表示されます。

```
>1  
--- 0=Disabled, 1=Enabled  
old Enabled=0  
new Enabled>
```

「old Enabled=」 : 現在の無効・有効を表示しています。

「new Enabled>」 : 無効にするには「0」、有効にするには「1」を入力します。

- 4) デイジーチェーン機能を有効にするため「1」を入力します。「new Enabled = 1」、次の行に「>」が表示されます。その後、親機・子機を設定するため「2」を入力します。すると同じように「old ID」に現状が表示されるので、「new ID>」のところに指定したい番号を入力します。

親機に設定→「0」

子機に設定→「1」

```
>1  
--- 0=Disabled, 1=Enabled  
old Enabled=0  
new Enabled>1  
new Enabled = 1  
  
>2  
old ID=0  
new ID>0  
new ID = 0  
  
>s  
Saved to FROM  
>
```

「本装置A」を親機にするため「0」を入力します。
このままでは設定は保存されていません。「>」に「s」を入力して保存してください。

5) 「本装置B」も同じように1)～4)を繰り返し、4)のところで「1」(子機の設定)を入力してください。

6) 親機、子機の設定が終わった後で、「本装置AのCOM2」と「本装置BのCOM1」をシリアルケーブルで接続してください。

注意	子機に設定するとWEBからの制御ができなくなります。 また子機は自動ログアウト無効の状態で作動するようになります。 解除する方法は下記の[2]をご覧ください。
	子機Bを、別の親機Cとデジチェーンで結んだ時、親機Cに設定したON遅延などの設定は手動で子機Bに設定する必要があります。 接続後、親機Cの「システム設定/基本設定」で「適用」を押してください。

[2] 解除方法

解除方法は親機・子機ともに共通になります。

① WEB画面上で

- 1) DIPスイッチの3番をON(下)にし、RESETボタンを1秒ほど押すとメンテナンスモードになります。(メンテナンスモードになると、本装置のIPアドレスは「192.168.10.1」になります。)
- 2) 設定するためのPCのIPアドレスも「192.168.10.xxx」に変更し、WEBブラウザで「192.168.10.1」にアクセスします。

注意	Microsoft Edgeではメンテナンスモードの本装置にアクセスすることができません(2017/11現在)。他のブラウザをご使用ください。
-----------	---

- 3) 【メンテナンスモード 機器設定】の「デジチェーン機能」を「無効」にします。
- 4) 【セットアップ終了】画面が現れるので、画面の指示に従ってDIPスイッチをすべてOFFにし、RESETボタンを1秒ほど押して通常モードにします。

② シリアル接続で

- 1) シリアルコンソールからアクセスします。そして、DIPスイッチの3番をON(下)にし、RESETボタンを1秒ほど押します。選択画面が現れたら「3」と入力し、システム項目を表示させます。
- 2) 「1」を入力し「new Enabled>」に「0」(無効)を入力すると「new Enabled = 0」と表示されます。そして「>」が表示されたら設定を保存するため「s」を入力します。

2. 機能

デジチェーン機能を使うと「16アウトレットの電源制御」が行えます。

親機が「Outlet 1～8」、子機が「Outlet 9～16」となります。

[1] WEB画面上で

デジチェーン接続を行うと「電源制御」画面が次のように変わります。

「電源制御」画面

電源制御 / アウトレット

電源制御

仮想制御

一斉制御

接点制御

機器情報

機器名称

Noname

設置場所

Nowhere

アウトレット情報

No.	名称	制御			電源状態
1	Outlet1	ON	OFF	Reboot	OFF
2	Outlet2	ON	OFF	Reboot	OFF
3	Outlet3	ON	OFF	Reboot	OFF
4	Outlet4	ON	OFF	Reboot	OFF
5	Outlet5	ON	OFF	Reboot	OFF
6	Outlet6	ON	OFF	Reboot	OFF
7	Outlet7	ON	OFF	Reboot	OFF
8	Outlet8	ON	OFF	Reboot	OFF
9	Outlet9	ON	OFF	Reboot	OFF
10	Outlet10	ON	OFF	Reboot	OFF
11	Outlet11	ON	OFF	Reboot	OFF
12	Outlet12	ON	OFF	Reboot	OFF
13	Outlet13	ON	OFF	Reboot	OFF
14	Outlet14	ON	OFF	Reboot	OFF
15	Outlet15	ON	OFF	Reboot	OFF
16	Outlet16	ON	OFF	Reboot	OFF
	All Outlets	ON	OFF	Reboot	

「システム設定」→「基本設定」→「アウトレット設定」では16個のアウトレットの名称, リブート時間, OFF遅延, ON遅延, 起動時のON遅延を設定できるようになります。

システム設定 / 基本設定

基本設定

詳細設定

セキュリティ

接点設定

時刻設定

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称

設置場所

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4
5	Outlet5	0	10	5	5
6	Outlet6	0	10	6	6
7	Outlet7	0	10	7	7
8	Outlet8	0	10	8	8
9	Outlet9	0	10	1	9
10	Outlet10	0	10	2	10
11	Outlet11	0	10	3	11
12	Outlet12	0	10	4	12
13	Outlet13	0	10	5	13
14	Outlet14	0	10	6	14
15	Outlet15	0	10	7	15
16	Outlet16	0	10	8	16

全アウトレットREBOOT時間 (秒)

また状態表示としては「簡易状態表示」画面,「詳細状態表示」画面,「システム情報」画面が16アウトレット表示になります。

「簡易状態表示」画面

簡易状態表示

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2	PING監視	正常	OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF
5	Outlet5	温度監視	正常	OFF
6	Outlet6			OFF
7	Outlet7			OFF
8	Outlet8			OFF
9	Outlet9	-	-	OFF
10	Outlet10	-	-	OFF
11	Outlet11	-	-	OFF
12	Outlet12	-	-	OFF
13	Outlet13	-	-	OFF
14	Outlet14	-	-	OFF
15	Outlet15	-	-	OFF
16	Outlet16	-	-	OFF

「システム情報」画面

システム情報	
基本システム情報	
機器名称	Noname
バージョン	0.67A.171020
モデル名称	RSC-MT8FS
アウトレット数	16
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
アウトレット5名称	Outlet5
アウトレット6名称	Outlet6
アウトレット7名称	Outlet7
アウトレット8名称	Outlet8
アウトレット9名称	Outlet9
アウトレット10名称	Outlet10
アウトレット11名称	Outlet11
アウトレット12名称	Outlet12
アウトレット13名称	Outlet13
アウトレット14名称	Outlet14
アウトレット15名称	Outlet15
アウトレット16名称	Outlet16
接点出力1名称	NV Output1
接点入力1名称	NV Input1
仮想アウトレット1名称	

[2] コマンド制御

デージーチェーン接続時も「TELNET」「シリアルコンソール」「WEBダイレクトコマンド」「メール制御コマンド」でコマンド制御が可能です。

使用可能なコマンド (n=1~16)

PON _n	POF _n	POR _n	PSR _n
MPON	MPOF	MPOR	
POS	XPOS	CPURESET (親機子機ともにCPUリセットがかかります)	

第13章

仕様一覧

■ 変数一覧表

変 数 名	初 期 値	内 容	備 考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IPアドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MACアドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
sysName	Noname	機器名称	全角10文字, 半角英数字20文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMPのSET, GETの有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAPの有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP不正アクセス時のTRAP通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP送信先アドレス	“, ” 区切りで8箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	“, ” 区切りで10箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GETコミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP SETコミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP TRAPコミュニティ名	
sysDescr	*1	(ReadOnly)	
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字, 半角英数字63文字以内
ifDescr	*2	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTPリトライ回数	
netRarpRetry	0	RARPリトライ回数	
telnetEnabled	0	TELNETの有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNETのポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェル(rsh)の有効/無効	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTYのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTMLファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTPの有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTPのポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTPコマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCPの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IPフィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr	192.168.10.0	IPフィルタアドレス	“, ” 区切りで10箇所以内

ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IPフィルタマスク	10箇所
model	RSC-MT8FS	モデル名 (ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1: 9600Bps 2: 19200Bps 3: 38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0: 無 1: 奇 2: 偶
version		バージョン表示 (ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET, シリアル通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウトの有効化	0: 無効 1: 有効
userLoginTimeout	600	HTTP自動ログアウト時間	
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時のOFF時間(秒)	8~3600の整数
debOlStartMode	3	電源投入時のアウトレット制御を指定	1: 電源断時の状態 2: 通常制御 3: スケジュール制御
debOlMaster	1,2,3,4,5,6,7,8, 9,10,11,12,13,14,15,16	マスターのアウトレット番号	左→右 1→8アウトレット -1~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlPowerOnTime	1,2,3,4,5,6,7,8, 1,2,3,4,5,6,7,8	各アウトレットのON時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlPowerOnSTime	1,2,3,4,5,6,7,8, 1,2,3,4,5,6,7,8	本体起動時の各アウトレットON遅延時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlPowerOnTTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの各アウトレットON遅延時間	左→右 1→8アウトレット 0~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlShutdownTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットのOFF時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlRebootTime	10,10,10,10,10,10,10,10, 10,10,10,10,10,10,10,10	各アウトレットのREBOOT時間	左→右 1→8アウトレット 0~3600の整数 (後半8個はデジチェーン)
debOlWdogAddr		監視先IPアドレス	左→右 1→8アウトレット "/" 区切りで8箇所以内
debOlWdogSendMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING監視 送信回数	左→右 1→8アウトレット 1~100の整数
debOlWdogNoResMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING監視 無応答回数	左→右 1→8アウトレット 1~100の整数
debOlWdogActCond	1,1,1,1,1,1,1,1	PING監視 監視対象数	左→右 1→8アウトレット 1~4(整数)
debOlWdogAction	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 Action	左→右 1→8アウトレット 0: noPing 1: noAction 2: Reboot 3: On 4: Off
debOlWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 Action回数 (ReadOnly)	左→右 1→8アウトレット
debOlWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視判断 (ReadOnly)	左→右 1→8アウトレット 0: 未設定 1: 正常 2: 異常 3: 回復中
debOlRebootCount	1,1,1,1,1,1,1,1	PING監視 再Reboot回数	左→右 1→8アウトレット 1~100
debOlRebootInterval	1,1,1,1,1,1,1,1	PING監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→8アウトレット 1~60
debOlActionLimit	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 異常時の1時間ごとに繰り返すリブート回数	左→右 1→8アウトレット 0: 無制限
debOlPopErrorMax	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 POPサーバーへの連続アクセス異常回数	左→右 1→8アウトレット 0: 機能無効

tempUpperA	45	上限警報閾値	小数点以下は0.25の倍数となる。
tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempOIControl	0,0,0,0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0:対象外 1:上限警報で動作 2:下限警報で動作
tempStatus	0	温度状態 (Read Only)	0:正常 1:上限注意 2:上限警報 3:下限注意 4:下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態 (Read Only)	0:正常(解除済) 1:上限警報実行 2:下限警報実行
tempDegree		温度測定値 (°C) (Read Only)	小数第二位まで表示
tempMaxDegree		最高温度 (Read Only)	
tempMinDegree		最低温度 (Read Only)	
tempMaxDegreeTime		最高温度記録時間 (Read Only)	
tempMinDegreeTime		最低温度記録時間 (Read Only)	
tempLogNumber	20	温度ログの記録件数	
tempLogClock	0	温度ログの起動からの経過時間 (秒) (Read Only)	
tempLogValue		温度ログの温度データ (数値表示用) (Read Only)	
tempLogGraphValue		温度ログの温度データ (グラフ表示用) (Read Only)	
tempLogTime		温度ログの取得日時 (Read Only)	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schOI(n)1Sch(文字列) (n): 1~8 (文字列): Kind, Year, Month, Day, Nth, WeekDay, PatNo		スケジュールデータ (ReadOnly)	
schCalCurrentYear		現在表示中のカレンダーの年 (ReadOnly)	起動直後は現在の日付
schCalCurrentMonth		現在表示中のカレンダーの月 (ReadOnly)	
schCalCurrentDay		現在表示中のカレンダーの日 (ReadOnly)	
schRegNum	0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットのスケジュール登録個数	左→右 1→8アウトレット (後半8個は無効)
schEditCalYear	0	編集中のカレンダーの年	
schEditCalMonth	0	編集中のカレンダーの月	
schEditCalDay	0	編集中のカレンダーの日	
schUITimeout	60	アップロードのタイムアウト時間 (秒)	
schUIOrcEnabled	1	アップロードのCRCチェックの有効化	0:無効 1:有効
schDIOrcEnabled	1	ダウンロードのCRCチェックの有効化	0:無効 1:有効
ipAdDnsServer		DNSサーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角英数字63文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角英数字63文字以内
mailCommandLoginName		メール制御ログイン名	半角英数字63文字以内
mailCommandPassword		メール制御パスワード	半角英数字63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管 (ReadOnly)	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1 mailLastEvent	通知メールの内容	
mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	8個
mailExtKind	1,1,1,1,1,1,1,1	メール送信の種類	1:To 2:CC 3:BCC
mailInfoFlag	1,1,1,1,1,1,1,1 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	①イベント テスト ②イベント PING ③イベント 温度 ④イベント スケジュール	0:無効 1:有効

centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNETからのTELNET中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTYからのTELNET中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNETからのTELNET中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTYからのTELNET中継ポート	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
beepEnabled	0	ブザー音の有効化	0:無効 1:有効
upsIdentName		UPS名称	
upsMonitorInterval	10	UPSモニタ時間間隔(秒)	0~60, 0は1と見なす。
debMasterUpsAlarmWaitTime	120	UPSシャットダウン開始待機時間(秒)	-1~300, -1の場合はシャットダウン無効
upsSignalLevel	15	UPS論理(4ビット)	
debMasterEnableUpsShut	2	UPSシャットダウン有効化	1:有効 2:無効
debOlShutdownSignal	2,2,2,2,2,2,2	《使用せず》	《このままで使用する》
upsOutputSource		給電状態(ReadOnly)	0, 1: 未設定, 3: 正常 5: バックアップ
upsBatteryStatus		バッテリー状態(ReadOnly)	0, 1: 未設定, 2: 正常 3: 低電圧
upsInputLineBads		商用入力異常回数(ReadOnly)	
debWakeupPhysAddr		WOL設定	“, ” 区切りで8箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用のWOL設定	“, ” 区切りで8箇所以内
ipAdMailRecvServer		POP3サーバアドレス	
ipAdSendServer		SMTPサーバアドレス	
etherSpeed		接続速度(ReadOnly)	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
pingPktSize	16	PINGパケットのデータ長	16~1472
resetCause		リセット原因表示(ReadOnly)	
recvErrorCount		PING監視 メール受信サーバーへのアクセスエラー回数(ReadOnly)	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	OUTLET LEDの点滅の有効化	0:無効 1:有効
clock		起動後の経過時間(秒)(ReadOnly)	
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MACアドレス	
broadOlGrpNo	0,0,0,0,0,0,0	一斉電源制御 連動の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadOlComNo	0,0,0,0,0,0,0	一斉電源制御 連動のコマンド	0:設定なし, 1:MPON, 2:MPOF, 3:MPOR
sshServerEnabled	0	SSHサーバーの有効化	0:無効 1:有効
sshServerPort	22	SSHサーバーのTCPポート番号	
sshServerTimeout	10	SSHサーバーへのタイムアウト時間(秒)	
sshServerName	admin	SSHサーバーへの接続ID	8文字以内
sshServerNameS	super	SSH接続(supervisor権限)のログイン名	半角英数字 8文字以内
logLevel	2	SSH使用中の表示メッセージレベル	
sshPublicDsaKey		KEYGENコマンドで生成するSSHキー	
sshPublicRsaKey		KEYGENコマンドで生成するSSHキー	
sshKnownHost1		SSHプロトコルでシャットダウンするときのアウトレットごとのキー	
sshKnownHost2			
sshKnownHost3			
sshKnownHost4			
sshKnownHost5			
sshKnownHost6			

sshKnownHost7			
sshKnownHost8			
datalogLogMode	1 0000 0000	データログ記録モード	0:無効 1:有効
datalogLogDisp	1 0000 0000	データログ表示モード	0:無効 1:有効
datalogLogInterval	10	温度センサーデータログ記録間隔(分)	
nvInName	NV Input1	接点入力の名前	
nvInOutletShortCommand		接点入力短絡時に実行する電源制御コマンド	
nvInOutletOpenCommand		接点入力開放時に実行する電源制御コマンド	
nvInContactShortCommand		接点入力短絡時に実行する接点出力制御コマンド	
nvInContactOpenCommand		接点入力開放時に実行する接点出力制御コマンド	
nvInStatus		接点入力 状態(ReadOnly)	0:開放 1:短絡
nvInCloseThreshold	1	接点入力 認識時間(秒)	
nvInOpenThreshold	1	接点入力が開放されたと認識する閾値(単位:秒)	
nvIgnorePeriod	3	起動時に接点入力に連動した電源/接点出力制御を行なわない期間(単位:秒)	
nvInBeepEnabled	0	接点入力によるブザー音制御の有効化	0: ブザー無効 1: 連続で鳴動 2: 0.5秒間隔で鳴動/停止を繰り返す 3: 1秒間隔で鳴動/停止を繰り返す ※変数 beepEnabledも有効にする必要があります
nvInBeepPolarity	0	接点入力によるブザー音制御の極性設定	0:接点短絡で鳴動, 接点開放で停止 1:接点開放で鳴動, 接点短絡で停止
nvOutName	NV Output1	接点出力の名前	
nvOutLinkEnabled	0	接点出力 連動 連動ソース設定	0:連動なし 1:電源出力に連動 2:温度監視に連動 3:死活監視に連動
nvOutLinkOutlet	0,0,0,0,0,0,0	接点出力 連動 電源出力	0:連動なし 1~8アウトレットNo
nvOutLinkTempUpper	0	接点出力 連動 温度監視 上限警報	0:無動作 1:上限警報で動作
nvOutLinkTempLower	0	接点出力 連動 温度監視 下限警報	0:無動作 1:下限警報で動作
nvOutLinkPing	0	接点出力 連動 死活監視	0:無動作 1:異常で動作
nvOutLinkHeartbeat	0	接点出力 連動 ハートビート監視	0:無動作 1:タイムアウトで動作
nvOutActionMode	0	接点出力 連動 動作モード	0:通常動作 1:反転動作
nvOutType	0	予約変数(ReadOnly)	未使用
nvOutStatus	0	接点出力 状態	0:開放 1:短絡
nvOutControlMode	0	接点出力 モード設定	0:短絡/開放 2:パルス出力
nvOutPulseWidth	50	パルス出力時のパルス幅(×10mSec)	
hbEnabled	0	ハートビート監視有効/無効設定	0:無効 1:有効
hbIpAddr		ハートビートパケット送信元IPアドレスフィルター	空欄でないとき, IPアドレスがこの値と一致しない送信元からのパケットを無視する。
hbPort	9100	ハートビートパケット受信ポート番号	
hbPcPort	9100	ハートビートパケット送信元ポート番号	
hbInterval	8	ハートビートのパケット受信間隔(秒)	1~99
hbRebootTime	30	アウトレットリバス後,パケット受信不可をチェック開始するまでの時間(秒)	1~999
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリポート実行限度回数	1~99
hbAction	0,0,0,0,0,0,0	ハートビートのアウトレットごとの動作	0:無効 1:ON 2:ON追従 3:OFF 4:OFF追従 5:リポート
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数(ReadOnly)	パケットを受信すると0にクリアされる
hbActionCount	0,0,0,0,0,0,0	アウトレットごとの動作を実行した回数(ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態(ReadOnly)	0:待機中、1:パケットを受信 2:タイムアウト発生中

hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信したIPアドレス (ReadOnly)	
httpCommandReturn		< 不使用 >	
httpCommandNo	0	< 不使用 >	< 不使用 >
httpCommandSet	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	< 不使用 >	
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ブラウザに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC, スマートフォン等端末の種類にあわせて画面を切り替えるための設定	
httpPageStart	0	ログイン後に最初に表示されるページ	0:簡易情報表示 1:監視状態表示 2: イベントログ表示 3:電源制御
httpAuthMode	2	HTTP認証モード	0:None 1:Basic認証 2:Digest認証
realmName	RSC-MT8FS	認証領域 (realm) 名	半角英数字20文字以内
nonceTime	180	nonceの有効時間 (秒)	30~30000
searchEnabled	1	RPCサーチ探索有効/無効設定	0:無効 1:有効
dcEnabled	0	デイジーチェーン接続機能有効/無効設定	0:無効 1:有効
dcId	0	デイジーチェーン接続親機子機設定	0:親機 1:子機1
dcOINum	接続時 8,8	親機・子機の持つアウトレット数	【Read Only】
dcStatus	0	デイジーチェーン接続状態 (Read Only)	0:未確定 1:正常 2:リトライ中 3:通信エラー発生中
versionUpEnabled	1	バージョンアップの有効化	0:無効 1:ローカル更新のみ 2:オンライン更新のみ 4:有効
revision	01	ファームウェアレビジョン番号 (Read Only)	

* 1: Meikyo Remote Power Controller, RSC-MT8FS Ver. 1.00C

* 2: Meikyo 100BASE-TX Driver

ログ一覧表

内 容	情 報	TELNETなどのLOG
ログ開始		Log Start
PING送信	outlet no. Ipaddr no.	ping
PING無応答	outlet no. Ipaddr no.	No Echo
死活判定 (NoAction)	アウトレットno.	No Action
死活判定 (REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot
死活判定 (アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On
死活判定 (アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off
正常／回復中	アウトレットno.	Outlet Recovered
スケジュール (REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール (アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On by Schedule
スケジュール (アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off by Schedule
全アウトレットON	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPON
全アウトレットOFF	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOF
全アウトレットREBOOT	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOR
アウトレットON	アウトレットno.ID (IDは接続者)	PON
アウトレットOFF	アウトレットno.ID (IDは接続者)	POF
アウトレットREBOOT	アウトレットno.ID (IDは接続者)	POR
UTY接続	IPaddr	-->Uty
UTYログインせず切断	IPaddr	<--Uty
UTYログイン	Ipaddr ID (IDは接続者)	==>Uty
UTYログアウト	Ipaddr ID (IDは接続者)	<==Uty
メールログイン要求	Ipaddr no.(no.は設定番号)	-->Mail
メールログイン	Ipaddr no.(no.は設定番号)	==>Mail
メールログアウト	Ipaddr no.(no.は設定番号)	<==Mail
TELNET接続	IPaddr	-->Telnet
TELNETログインせず切断	IPaddr	<--Telnet
TELNET多重再接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNETログイン	IPaddr	==>Telnet
TELNETログアウト	IPaddr	<==Telnet
Web接続		-->Web
Webログイン		==>Web
Webログアウト		<==Web
設定変更	[変数名] ID (IDは接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID (IDは接続者)	write to FROM
温度状態変化	正常, °C	Temperature Normal
温度状態変化	上限注意, °C	Temperature High Warning
温度状態変化	上限警報, °C	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意, °C	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報, °C	Temperature Low Alarm
NTPサーバ接続	hour minute second	NTP --- hh:mm:ss
NTPサーバ接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
SSHサーバ接続	IPaddr	SSH Server Connected

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容	TelNET	SSH	メール	WEBブラウザ
MPON	全アウトレットの電源出力開始	○デ	○デ	○デ	○デ
MPOF	全アウトレットの電源出力停止	○デ	○デ	○デ	○デ
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）	○デ	○デ	○デ	○デ
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1～8[デ：～16]	○デ	○デ	○デ	○デ
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1～8[デ：～16]	○デ	○デ	○デ	○デ
PORn	指定されたアウトレットの電源リブート n=1～8[デ：～16]	○デ	○デ	○デ	○デ
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1～8[デ：～16]	○デ	○デ	○デ	○デ
SON1	接点出力を短絡	○	○	○	×
SOF1	接点出力を開放	○	○	○	×
MSON	全接点出力を短絡	○	○	○	×
MSOF	全接点出力を開放	○	○	○	×
SSO	接点出力の状態を取得	○	○	○	×
SSI	接点入力の状態を取得	○	○	○	×
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。	○	○	○	×
PONVx	（xは1～8） debWakeupInterval後にマジックパケットを送信する。	○	○	○	×
OLSn	死活監視状態の表示 n=1～8 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No. アウトレット番号[1～8] Power 電源状態[0：Off 1：On] Judge 判定[1：正常 2：異常 3：回復中] Action Count Action実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1：正常 2：異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間（ms） [0：未設定 1：応答時間 9999：未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1：正常 2：異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間（ms） [0：未設定 1：応答時間 9999：未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1：正常 2：異常] NoEchoCount3 アドレス3の未応答回数 NoEchoTime3 アドレス3の応答時間（ms） [0：未設定 1：応答時間 9999：未応答] Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1：正常 2：異常] NoEchoCount4 アドレス4の未応答回数 NoEchoTime4 アドレス4の応答時間（ms） [0：未設定 1：応答時間 9999：未応答]	○	○	○	○
TOS TOSn	温度監視の状態 5つの数字（①，②，③，④，⑤）が表示されます。（nを省略するとすべてのアウトレットを表示します。） ①[アウトレット番号] ②[アウトレット状態(0：OFF, 1：ON)]	○	○	○	○

	③[温度監視動作設定(0:無動作, 1:上限警報ON, 2:下限警報ON, 3:上限警報OFF, 4:下限警報OFF)] ④[温度監視状態(0:正常, 1:上限注意超過, 2:上限警報超過, 3:下限注意超過, 4:下限警報超過)] ⑤[温度監視動作状態(0:無動作, 1:上限動作, 2:下限動作)]				
TSP	以下の変数の内容を一括で表示します。 tempEnabled tempTestMode tempSimMode tempLowerA tempLowerW tempLowerH tempLowerOff tempUpperA tempUpperW tempUpperH tempUpperOff	○	○	○	○
VER	バージョンの表示	○	○	○	○
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答: mmmmmmmm 左側からアウトレット1~8[デ:~16] m=0:OFF 1:ON	○デ	○デ	○デ	○デ
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答: ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, 左側からアウトレット1~8 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間	○デ	○デ	○デ	○デ
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。	○	×	×	×
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日	○	○	○	×
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒	○	○	○	×
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]	○	×	×	×
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。 (例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps	○	○	○	×
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。	○	○	×	×
PROMPT=n	0(プロンプト表示無し) 1(「>」のプロンプト表示) 2(「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。	○	○	×	×
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。	○	○	○	×

■ 仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様		ARP, TCP/IP, UDP/IP, ICMP, POP3, IMAP, SSH, BOOTP, DHCP, TELNET, SMTP, APOP, NTP, HTTP, SNMP, NTTCP
	LAN制御方法		SNMPマネージャー, TELNET, SSH
			WEB
			E-mail
機能	電源制御／管理		電源ON
			電源OFF
			電源リブート
			電源状態取得
			グループ制御
	スケジュール機能		年間スケジュール機能
			RTC (Real Time Clock)による時刻保持
			NTPによる時刻同期機能
			スケジュールON/OFF機能
	状態監視		ICMP送信
			通報機能:SNMPトラップ, UDPパケット
			Mail通知
温度監視(要オプション)			
ハートビート			
WOL対応機能		あり:マジックパケット送信	
ハード仕様	インターフェース		10Base-T/100Base-TX (RJ45) (IEEE802.3に準拠)
			RS-232C (Dsub9 ピンオス)×2
			温度センサ (RJ11)[オプション]
			無電圧接点入力 ×1 無電圧接点出力 ×1 DC24V 0.7A (抵抗負荷)
	定格	最大制御出力	AC100V 15A (1500W)
		消費電力	最大 5.8 W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境		温度 0～40℃
			湿度 20～85%(ただし結露なきこと)
	外形寸法[脚ゴム除く]		438(W) x43.4(H) x238(D) mm
重量		4.0 kg	
環境保証	特定電気用品認証品(電気用品安全法), RoHS指令準拠		

注記 本製品は内部でSG(信号グラウンド)とFG(フレームグラウンド)が接続されています。

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14

東京フェライトビル4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<https://www.meikyo.co.jp>

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本装置を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本装置がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

TIME BOOT RSC-MT8FS

取扱説明書 2022年 2月 第1.2c版

※「TIME BOOT」は明京電機(株)の商標です。登録番号5396317号（平成23年3月4日登録）